

地理的分野 年間学習指導計画・評価計画（案）

編	章・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第1編 世界のさまざまな地域	●章の評価規準					
	第1章 私たちの地球と世界の地域構成 5	○地球儀や地図帳を活用し、緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置、地域区分などを理解し、世界の地域構成を大観する。	世界の地域構成に対する関心を高め、それらを意欲的に追究し、とらえようとしている。	世界の地域構成を、緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置、地域区分などをもとに多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	地球儀や世界地図など世界の地域構成に関するさまざまな資料から、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	世界の地域構成について、緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置、地域区分などを理解し、その知識を身に付けている。
	●各単元の評価規準					
	①地球、そして世界へ… 1	○世界の大陸と海洋の位置と名称を知り、地球を大観する。 ○地球儀などを使って、陸地と海洋の分布や面積比を確かめることができる。	世界の大陸と海洋に対する関心を高め、位置や名称、地球儀上での分布や面積比などを追究しようとしている。	私たちの住む地球が「宇宙船地球号」といわれる意味を考察し、表現している。	地球儀などを用いて、さまざまな角度から地球を眺め、海洋や大陸の位置など地球の様子を読み取っている。	世界の大陸と海洋の位置や名称、面積比について理解している。
	②200近くの国々からなる世界 1	○世界の主な国のうち、60か国程度の位置と名称を身に付ける。 ○地図帳を使って、世界各国の面積の大きい・小さいや、人口の多い・少ないを調べ、比較できる。	人口を面積に置き換えて地図に表すなど、さまざまな世界地図に関心を高め、主な世界の国々から60か国程度の位置と名称が一致するように、地図を使って追究している。	「人口を面積に置き換えて示した世界地図」を参考に、さまざまな世界地図の表し方を考察し、説明している。	地図帳や教科書の地図を使って、面積や人口からみた世界の国々の特色を調べたり、日本と比較したりしている。	授業で取り上げた主な国の位置と名称を、その特色と結びつけながら身に付けている。
	③国名や国旗から世界をみると… 1	○世界の主な国々を国名・国旗の由来や国境線からとらえ、その国の歴史や文化などの特色について関心をもつ。 ○地図帳のさくいんを使って国の位置を調べたり、さまざまな資料から国名・国旗の成り立ちを調べることができる。	世界の主な国々の歴史や文化などの特色に関心を高め、国名・国旗の由来や国境線の特色、さくいんを使って国の位置調べなどを追究している。	世界のさまざまな国名・国旗や国境からわかることを考察し、説明している。	地図帳のさくいんを使って国の位置を調べたり、さまざまな資料から国名・国旗・国境の成り立ちを調べ、まとめている。	授業で取り上げた主な国の位置と名称を、国名・国旗・国境の成り立ちと結びつけながら身に付けている。
	④地球儀に引かれた線は… 1	○赤道や本初子午線、緯線や経線の意味を知り、日本の位置をとらえる。 ○地球儀を使って、地球上の位置を緯度と経度によって示すことができる。	地球上の位置を、緯度や経度によって示す方法に対する関心を高め、地球儀上での日本の位置をとらえようとしている。	日本の領域の広がりや位置について、「日本と同じ経度・緯度を示した世界地図」を参考に、他の国々の経度・緯度と比較しながら考察し、説明している。	自校のおおまかな「地球番地」を地図帳や地球儀を使って読み取っている。	緯線や経線、赤道や本初子午線の意味、緯度・経度を使った地球上の位置の示し方を理解している。
	⑤地球儀から世界地図へ 1	○球体である地球を平面の世界地図に表す際に、面積・形・方位などのすべての要素を正しく描くことはできないことが理解できる。 ○地球儀や世界地図を活用しながら、さまざまな作業を通じて、投影法による世界地図の特徴の差異について関心をもつ。	地球儀の表現に対する関心を高め、さまざまな投影法の世界地図の特徴を意欲的に追究し、とらえようとしている。	正角図法（メルカトル図法）、方位図法（正距方位図法）、正積図法（モルワイデ図法）の長所と短所を考察し、説明している。	地球儀から方位や距離を知るための、テープを用いた作業を通じて地球儀を活用し、その特徴をとらえている。	平面の世界地図では、面積・形・方位などのすべての要素を正しく同時に描くことはできないことを理解し、用途に応じた世界地図の活用方法を身に付けている。
地理にアプローチ 世界の略地図を描こう (1)	○世界のおおまかな略地図を描くことができる。 ○これまで学習した内容を、世界の略地図を使ってまとめることができる。	世界のおおまかな略地図を描く方法に関心を高め、その描き方やそれを用いて、これまで学習した内容をまとめようとしている。	省略された世界地図を描くポイントを考察し、説明している。また、これまで学習した内容を略地図を用いて表現している。	大陸の形や位置関係をバランスよくとらえて、世界の略地図を描いている。	大陸の名称をあげながら、大陸の形や位置関係をバランスよくとらえている。	

編	章・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第1編 世界のさまざまな地域	●章の評価規準					
	第2章 人々の生活と環境 8	○世界各地の人々の生活の様子とその変容について、自然及び社会的条件と関連づけてとらえ、世界の人々の生活や環境の多様性を理解する。	世界各地の人々の生活と環境の多様性に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。	世界各地の人々の生活と環境の多様性を、自然及び社会的条件と関連づけて、人々の生活の様子とその変容をもとに多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	世界各地の人々の生活と環境の多様性に関するさまざまな資料から、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめている。	世界各地の人々の生活と環境の多様性について、自然及び社会的条件と関連づけて、人々の生活の様子とその変容を理解し、その知識を身に付けている。
	●各単元の評価規準					
	①地域によって気候が変わる 1	○23ページの「世界の気候帯の分布」と、気温と降水量のグラフを活用し、世界の気候帯の分布をとらえる。 ○大陸別の気候帯の分布について関心をもち、それぞれの気候帯の特徴を比較し表現することができる。	世界の大陸別の気候帯の分布について関心をもち、植生と気候帯の関連性について追究し、とらえようとしている。	樹木気候（熱帯、温帯、冷帯）と無樹木気候（乾燥帯、寒帯）の特徴をとらえ、表現している。	気温と降水量のグラフを正確に読み取り、気温や降水量の季節変化など観測地点（オイミヤコンと東京）の気候の特徴をとらえている。	五つの気候帯の地図上の分布についておおまかに理解し、気温と降水量のグラフを正確に読み取ることができる。
	②赤道に沿った暑い世界 1	○熱帯の地域の自然環境の特色と、そこに暮らす人々の生活とその変化を理解する。 ○熱帯の気候分布図からその広がりの特徴を読み取り、気温と降水量のグラフから熱帯気候の特色をとらえることができる。	熱帯の地域の自然環境の特色や、そこに暮らす人々の生活やその変化に関心を高め、熱帯気候の特色について追究し、とらえようとしている。	熱帯雨林の減少が進行している理由を、この地域に住む人々の生活の変化から考察し、説明している。	熱帯の気候分布図からその広がりの特徴を読み取り、気温と降水量のグラフから熱帯気候の特色をとらえている。	熱帯の地域の自然環境の特色と、そこに暮らす人々の生活とその変化を理解している。
	③植物の少ない乾いた世界 1	○乾燥帯の地域の自然環境の特色と、そこに暮らす人々の生活とその変化を理解する。 ○乾燥帯の気候分布図からその広がりの特徴を読み取り、気温と降水量のグラフから乾燥帯気候の特色をとらえることができる。	乾燥帯の地域の自然環境の特色や、そこに暮らす人々の生活やその変化に関心を高め、乾燥帯気候の特色について追究し、とらえようとしている。	遊牧民の定住化が進んでいる理由を、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	乾燥の気候分布図からその広がりの特徴を読み取り、気温と降水量のグラフから乾燥帯気候の特色をとらえている。	乾燥帯の地域の自然環境の特色と、そこに暮らす人々の生活とその変化を理解している。
	④季節の変化が明らかな世界 1	○温帯の地域の自然環境の特色と、そこに暮らす人々の生活とその変化を理解する。 ○温帯の気候分布図からその広がりの特徴を読み取り、気温と降水量のグラフから温帯気候の特色をとらえることができる。	温帯の地域の自然環境の特色や、そこに暮らす人々の生活やその変化に関心を高め、温帯気候の特色について追究し、とらえようとしている。	スペインにおけるシエスタの時間を短くしてきている理由を、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	温帯の気候分布図からその広がりの特徴を読み取り、気温と降水量のグラフから温帯気候の特色をとらえている。	温帯の地域の自然環境の特色と、ヨーロッパ地域に暮らす人々の生活とその変化を理解している。
⑤氷と白夜の世界 1	○冷帯（亜寒帯）・寒帯の地域の自然環境の特色と、そこに暮らす人々の生活とその変化を理解する。 ○冷帯（亜寒帯）・寒帯の気候分布図からその広がりの特徴を読み取り、気温と降水量のグラフから冷帯（亜寒帯）・寒帯気候の特色をとらえることができる。	冷帯（亜寒帯）・寒帯の地域の自然環境の特色や、そこに暮らす人々の生活やその変化に関心を高め、冷帯（亜寒帯）・寒帯気候の特色について考察し、とらえようとしている。	寒冷な気候のもとで暮らすイヌイットなどの生活の工夫やその変化について考察し、その過程や結果を適切に表現している。	冷帯（亜寒帯）・寒帯の気候分布図からその広がりの特徴を読み取り、気温と降水量のグラフから冷帯（亜寒帯）・寒帯気候の特色をとらえている。	冷帯（亜寒帯）・寒帯の地域の自然環境の特色と、そこに暮らす人々の生活とその変化を理解している。	

編	章・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第1編 世界のさまざまな地域	⑥標高が高く空気の薄い世界 1	○標高の高い地域の自然環境の特色と、そこに暮らす人々の生活とその変化を理解する。 ○高山気候の分布図からその広がりやその特色を読み取り、気温と降水量のグラフから高山気候の特色をとらえることができる。	標高の高い地域の自然環境の特色や、そこに暮らす人々の生活やその変化に関心を高め、高山気候の特色について考察し、とらえようとしている。	高山地域に暮らす人々の生活の工夫とその変化について、その過程や結果を適切に表現している。	高山気候の気候分布図からその広がりやその特色を読み取り、気温と降水量のグラフから高山気候の特色をとらえている。	標高の高い地域の自然環境の特色と、そこに暮らす人々の生活とその変化を理解している。
	⑦さまざまな言語と人々の暮らし 1	○世界にはさまざまな民族が暮らしており、それらをもとに多様な言語や文化が形成されていることを理解する。 ○多様な文化の存在を互いに認めて、共存していこうとする態度を養う。	世界の多様な民族や、言語に関心を高め、多様な文化の存在を調べようとしている。	多様な文化の存在を互いに認めて、共存していくことの大切さを説明している。	「世界の共通語・公用語」から、言語の種類や分布の地域的特色をとらえている。	世界にはさまざまな民族が暮らしており、それらをもとに多様な言語や文化が形成されていることを理解している。
	⑧さまざまな宗教と人々の暮らし 1	○世界の主な宗教の特色とそ分布を理解する。 ○多様な宗教の存在を互いに認めて、共存していこうとする態度を養う。	世界の主な宗教の特色とそ分布に関心を高め、多様な宗教の存在を調べようとしている。	さまざまな信仰をもつ人々や社会のなかで意識すべきことを、起こりうる問題点などから考察し、説明している。	「世界の主な宗教の分布」から、宗教の種類や分布の地域的特色をとらえている。	世界の主な宗教の特色とそ分布を理解している。
●節の評価規準						
第3章 世界の諸地域 1 アジアの多様性と経済発展 7	○アジア州の地域を大観し、その上で多様性と経済発展を主題として設定し、地域的特色を理解する。	アジア州の地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。	アジア州の多様性と経済発展をもとに多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	アジア州の地域的特色に関するさまざまな資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	アジア州の多様性と経済発展をもとに地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。	
●各単元の評価規準						
①アジアをながめて 1	○アジア州の歴史と自然環境を大観し、アジアを構成する主な国々の位置と名称を理解する。 ○アジア州の地勢図から、主な自然地名や国々の位置と名称を読み取ることができる。	アジア州の地勢と国々に対する関心を高め、アジア州の歴史や文化、自然環境の特色をとらえようとしている。	「アジアの地勢と国々」、「アジアの年間降水量」や「面積と人口の州別割合」を読み取り、アジア州の主な自然環境について考察するとともに、世界に占める人口の割合が、面積に比較して高いことを説明している。	「アジアの地勢と国々」、「アジアの年間降水量」や「面積と人口の州別割合」から、アジア州の主な自然地名や国々の位置と名称や世界に占める人口の割合を読み取っている。	アジア州の歴史と自然環境を大観し、アジアを構成する主な国々の位置と名称を理解している。	
②巨大な人口と多様な民族 1	○中国を例に、多くの人口や多様な民族と、それらを支える農業生産の特色を理解する。 ○中国を例に、自然環境と人口分布、自然環境と農業の関係について考察し、表現できる。	中国を例に、多様な民族の存在や多くの人口を支える農業生産の特色に関心を高め、自然環境と人口分布、自然環境と農業の関係についてとらえようとしている。	中国を例に、自然環境と人口分布、自然環境と農業の関係について考察し、表現している。	「中国の人口密度の分布」と「中国の民族分布」から中国が多民族国家であることを読み取っている。また、「中国の農業」から各地方の地域的特色と気候との関係を読み取っている。	中国の人口とそ課題、多様な民族とそれらを支える農業生産の特色を理解している。	
③「世界の工場」の出現 1	○中国を例に、工業化と経済発展が進み、それによって人々の生活が変化していることを理解する。 ○中国を例に、経済発展とそ背景、経済発展と人々の生活、環境問題の深刻化との関係について考え、表現できる。	中国の工業化と経済発展による人々の生活の変化に関心を高め、中国の経済発展とそ背景、経済発展と人々の生活との関係、深刻化する環境問題についてとらえようとしている。	中国を例に、経済発展とそ背景、経済発展と人々の生活との関係、深刻化する環境問題について考察し、表現している。	「中国の鉱工業」から、経済特区、経済技術開発区の分布の特色を読み取っている。また、「主な電子機器の生産に占める中国の割合」から、家電製品・通信機器の生産量の多さを読み取っている。	中国における工業化と経済発展の進展の様子と、それによる人々の生活の変化、環境問題の深刻化を理解している。	

編	章・学習項目	学習のねらい	社会的現象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的現象についての知識・理解
第1編 世界のさまざまな地域	④工業化と大都市の成長 1	○韓国を例に、工業化にともない、経済発展と都市化が進むことを理解する。 ○韓国を例に、大都市が成長することによって、どのような問題が引き起こされているのかを考え、表現できる。	韓国の工業化による経済発展と都市化の進展の様子に関心を高め、大都市が成長することによって引き起こされる問題をとらえようとしている。	韓国を例に、大都市が成長することによって、どのような問題が引き起こされているのかを考察し、表現している。	教科書48・49ページの写真やグラフから韓国及び首都のソウルの発展の様子を読み取っている。	韓国における工業化にともなう経済発展、都市化の進展と、そのことによる問題を理解している。
	⑤変わる産業と貿易 1	○東南アジアを例に、多様な宗教や民族、産業の特徴とその変化を理解する。 ○東南アジアを例に、工業化が進んだ背景や人々の生活の変化について考え、表現できる。	東南アジアの多様な宗教や民族、産業の特徴とその変化に関心を高め、工業化が進んだ背景や人々の生活の変化についてとらえようとしている。	東南アジアを例に、工業化が進んだ背景や人々の生活の変化について考察し、表現している。	「東南アジアの宗教」から、東南アジアでは多様な宗教が各地で信仰されていることを読み取っている。また、「タイとマレーシアの輸出品の変化」から工業化が進んでいることを読み取っている。	東南アジアの多様な宗教や民族、産業の特徴とその変化を理解している。
	⑥多様な農業と、世界とつながる工業 1	○南アジアを例に、農業・工業の発達や、近年のインドの産業の特徴であるICT産業の進展について理解する。 ○南アジアを例に、農業・工業の発達した背景や、ICT産業が近年進展してきた条件について考え、表現できる。	南アジアの産業について関心を高め、農業・工業・ICT産業が発展した背景や特色についてとらえようとしている。	南アジアを例に、農業・工業・ICT産業が発展してきたことについて、どのような背景や条件が関係しているのかを考察し、表現している。	「南アジアの農業分布」から、多様な農業が営まれていることを読み取っている。また、「南アジアの鉱工業」から、工業都市の分布の特徴を読み取っている。	南アジアで農業が発展した背景、工業発達と外国企業との関係、ICT産業の成長を理解している。
	⑦世界を動かす石油資源 1	○西アジアを例に、自然環境と人々の暮らしや、石油資源に依存した経済の特色を理解する。 ○西アジアを例に、石油資源が世界に対して影響を及ぼし、人々の伝統的な暮らしが変化していることについて考え、表現できる。	西アジアの自然環境と人々の暮らし、石油資源に依存した経済の特色に関心を高め、石油資源が世界に影響を与え、人々の伝統的な暮らしが変化していることをとらえようとしている。	西アジアを例に、石油資源が世界に対して影響を及ぼし、人々の伝統的な暮らしが変化していることについて考察し、表現している。	「原油の生産量と確認埋蔵量の国別の割合」と「世界の主な油田と、原油輸出の流れ」から、主な原油の生産地域と日本との関わりの深い生産地域を読み取っている。	西アジアの自然環境と人々の暮らし、石油資源に依存した経済の特色を理解している。
	特設 宗教をめぐる共存と対立 (1)	○イスラム教を例に、宗教と人々の生活との関わりを理解する。 ○イスラム教を例に、宗教をめぐる対立があることを知り、平和的に共存するための方法を考えることができる。	イスラム教を例に、主な宗教と人々の生活との関わりに関心を高め、宗教を巡る対立や平和的に共存するための方法を調べようとしている。	異なる宗教が共存するためには、どのようなことが必要かを考察し、説明している。	イスラム教を例に、特色や他の宗教との関わりや課題をまとめている。	宗教の共存と対立について、さまざまな動きや考え方があることを理解している。

編	章・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第1編 世界のさまざまな地域	●節の評価規準					
	第3章 世界の諸地域 2 アフリカの人々の暮らしとその変化 4	○アフリカ州の地域を大観し、その上で人々の暮らしとその変化を主題として設定し、地域的特色を理解する。	アフリカ州の地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。	アフリカ州の人々の暮らしとその変化をもとに多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	アフリカ州の地域的特色に関するさまざまな資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	アフリカ州の人々の暮らしとその変化をもとに地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。
	●各単元の評価規準					
	①アフリカをながめて 1	○アフリカ州の位置と自然環境を大観し、アフリカを構成する主な国々の位置と名称を理解する。 ○アフリカ州の地勢図から、主な自然地名や国々の位置と名称を読み取ることができる。	アフリカ州の地勢と国々に対する関心を高め、アフリカ州の歴史や文化、自然環境の特色をとらえようとしている。	「アフリカ州の地勢と国々」、「アフリカの気候区分」や「アフリカの人口密度と主な都市の分布」から、アフリカ州の主な自然地名や国々の位置と名称を読み取り、抱える課題について考察し、説明している。	「アフリカ州の地勢と国々」、「アフリカの気候区分」や「アフリカの人口密度と主な都市の分布」から、アフリカ州の主な自然地名や国々の位置と名称を読み取っている。	アフリカ州の位置や自然環境、アフリカを構成する主な国々の位置と名称を理解している。
	②アフリカの歩みと多様な民族 1	○アフリカの国々の歴史と、現代につながる課題について理解する。 ○現代でも続く紛争や難民などについて関心を高め、アフリカの地域情報を集めたり調べたりすることができる。	現代でも続く紛争や難民などについて関心を高め、アフリカの国々の歴史と現代につながる課題をとらえようとしている。	アフリカの国々の歴史と現代につながる課題について、資料で読み取れたことなどをとらえようとしている。	「アフリカの国々の独立」から多くの国々がヨーロッパ諸国の植民地であったこと、独立後の歴史が浅いことを読み取っている。また、「アフリカの主な紛争と難民数」から紛争地域を中心に多くの難民が発生していることを読み取っている。	アフリカの国々の歴史と現代につながる課題について理解している。
	③伝統的な農村のいま 1	○アフリカの農業について、自然環境との関係や輸出の特色を理解する。 ○アフリカで都市化が進むしくみと、それにもなっている問題について考え、表現できる。	アフリカで都市化が進むしくみとそれにもなっている問題について関心を高め、アフリカの農業の特色や課題についてとらえようとしている。	アフリカで都市化が進むしくみを農業の課題から推察し、それにもなっている問題について考察し、表現している。	写真やグラフ、「アフリカの農業地域」の地図などから、産業の特色や商品作物の栽培に頼る農業の様子を読み取っている。	アフリカの農業について、自然環境との関係や輸出の特色を理解している。
	④変わる人々の暮らし 1	○アフリカには豊富な鉱産資源が分布し、多くの国がそれらの輸出に頼るモノカルチャー経済から抜け出す努力を続けていることを理解する。 ○アフリカで工業化が進まない理由について、外国との関係の点から考え、表現できる。	アフリカの豊富な鉱産資源の分布とモノカルチャー経済のしくみに関心を高め、アフリカで工業化が遅れる理由についてとらえようとしている。	アフリカで工業化が進まない理由について、必要な教育を受けられない人が多いことや外国との関係の点から考察し、表現している。	「主な鉱産資源の生産割合」や「アフリカの主な鉱産資源」から、豊富な鉱産資源の分布と生産がみられることを読み取っている。	アフリカには豊富な鉱産資源が分布し、多くの国がその輸出に頼るモノカルチャー経済にあることを理解している。
	特設 甘いチョコレート の辛い現実 (1)	○アフリカで生産されるカカオを例に、農産物の生産、輸出とその問題について理解する。 ○フェアトレードについて関心をもち、身近な食品などから具体的に調べようとする態度を養う。	フェアトレードのしくみに関心を高め、アフリカで生産、輸出される農作物とその問題についてとらえようとしている。	アフリカで生産されるカカオを例に、農産物の生産、輸出とその問題について考察し、説明している。	「世界の地域別児童労働の割合」から、アフリカでは児童労働の割合が高く、またその域内でも地域差がみられることを読み取っている。	アフリカで生産されるカカオをもとに、農産物の生産、輸出とその問題について理解している。

編	章・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第1編 世界のさまざまな地域	●節の評価規準					
	第3章 世界の諸地域 3 統合を強めるヨーロッパの国々 6	○ヨーロッパ州の地域を大観し、その上で地域統合を主題として設定し、地域的特色を理解する。	ヨーロッパ州の地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。	ヨーロッパ州の地域統合をもとに多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	ヨーロッパ州の地域的特色に関するさまざまな資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	ヨーロッパ州の地域統合をもとに地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。
	●各単元の評価規準					
	①ヨーロッパをながめて 1	○ヨーロッパ州を大観し、自然環境や主な国々の位置と名称を理解する。 ○ヨーロッパ州の地勢図から、主な自然地名や国々の位置と名称を読み取ることができる。	ヨーロッパ州の地勢と国々に対する関心を高め、ヨーロッパ州の歴史や文化、自然環境の特色をとらえようとしている。	「ヨーロッパの地勢と国々」、「ヨーロッパの気候」や「ヨーロッパにみられる宗教の広がり」を読み取り、ヨーロッパ州の自然環境（地形・気候）やキリスト教が広範囲で信仰されていることを説明している。	「ヨーロッパ州の地勢と国々」、「ヨーロッパの気候」や「ヨーロッパにみられる宗教の広がり」から、ヨーロッパ州の自然環境（地形・気候）や宗教の分布を適切に読み取っている。	ヨーロッパの歴史や文化と自然環境、ヨーロッパを構成する主な自然地名や国々の位置と名称を理解している。
	②ヨーロッパ連合への道のり 1	○ヨーロッパ連合の成り立ちとその拡大について理解する。 ○ヨーロッパ連合加盟国における地域格差の状況とその要因について考え、表現できる。	ヨーロッパ連合の成り立ちとその拡大、域内における地域格差の状況とその要因をとらえようとしている。	ヨーロッパ連合加盟国における地域格差の状況とその要因について考え、表現している。	「ヨーロッパ連合（EU）加盟国の拡大」や「EUと周辺各国の一人当たり国民総所得」から、ヨーロッパ連合の成り立ちとその拡大、域内における地域格差の状況を読み取っている。	ヨーロッパ連合の成り立ちとその拡大について理解している。
	③ヨーロッパ農業のいま 1	○ヨーロッパの農業について、自然環境との関係から地域的特色を理解する。 ○フランスを例に、農業生産の特色やヨーロッパ連合との関わりについて考え、表現できる。	ヨーロッパの農業に対する関心を高め、その地域的特色と課題をとらえようとしている。	ヨーロッパの南部と北部の農業の特色について、それぞれ対比しながら文章にまとめ、ヨーロッパ連合の農業政策について説明している。	「国土面積に占める農地面積の国別割合」から、フランスなどのヨーロッパの国々は国土面積に占める農地の割合が高いことを読み取っている。	ヨーロッパの農業について、自然環境との関係から地域的特色を理解している。
	④国境を越える工業生産 1	○ヨーロッパ連合の工業について、資源分布との関係や工業地域の変化、地域格差について理解する。 ○ドイツを例に、工業の発展と外国人労働者の増加の関係について考え、表現できる。	ヨーロッパ連合の工業に対する関心を高め、地域的な変化やその影響をとらえようとしている。	ドイツを例に、工業の発展と外国人労働者の増加の関係について考え、表現している。	「ヨーロッパに集まる外国人労働者」や「ヨーロッパ各国の工業生産」からヨーロッパ連合の工業の課題を読み取っている。	ヨーロッパ連合の工業について、資源分布との関係や工業地域の変化、地域格差について理解している。
	⑤市民が取り組む環境対策 1	○ヨーロッパの国境を越える環境問題と、それに対する人々の努力について理解する。 ○オランダを例に、環境問題と人々の環境に対する意識や行動について考え、表現できる。	ヨーロッパの環境問題と、それに対する人々の努力について関心を高め、とらえようとしている。	オランダを例に、環境問題と人々の環境に対する意識や行動について考察し、表現している。	「ヨーロッパの酸性雨の降水状況」から、酸性雨の被害の広がりを読み取っている。「ポルダーの広がり」から、オランダが干拓地をつくることで国土を広げてきたことを読み取っている。	ヨーロッパの国境を越える環境問題と、それに対する人々の努力について理解している。
	⑥新しい国のかたちを目ざして 1	○ロシア連邦の自然環境と人口分布の特色、歴史的な社会の変化について理解する。 ○ロシア連邦の鉱産資源を通じたヨーロッパ連合との関係や、経済格差の拡大について考え、表現できる。	ロシア連邦の自然環境と人口分布の特色、歴史的な社会の変化に対する関心を高め、とらえようとしている。	ロシア連邦の鉱産資源の輸出によるヨーロッパ連合との関係や、経済格差の拡大について考察し、表現している。	「ロシア連邦の貿易」から、ロシア連邦はヨーロッパ連合との結びつきが強いことを読み取っている。	ロシア連邦の位置と自然環境、人口分布の特色、歴史的な社会の変化について理解している。
特設 原子力発電と環境問題 (1)	○ヨーロッパを例に、原子力発電の状況について理解する。 ○原子力発電と環境への影響について関心をもち、その利点と課題について調べようとする態度を養う。	ヨーロッパの原子力発電の状況や環境への影響に対する関心を高め、その利点と課題について調べようとしている。	原子力発電と環境への影響について、その利点と課題について考察している。	「ヨーロッパ各国の原子力発電所数と、その発電量に占める原子力発電の割合」から、ヨーロッパ各国の発電量に占める原子力発電の割合を読み取っている。	ヨーロッパを例に、原子力発電の状況と環境への影響について理解している。	

編	章・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第1編 世界のさまざまな地域	●節の評価規準					
	第3章 世界の諸地域 4 世界に大きな影響力をもつ北アメリカ 5	○北アメリカ州の地域を大観し、その上で世界に対する影響力を主題として設定し、地域的特色を理解する。	北アメリカ州の地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。	北アメリカ州の世界に対する影響力を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	北アメリカ州の地域的特色に関するさまざまな資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	北アメリカ州の世界に対する影響力をもとに地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。
	●各単元の評価規準					
	①北アメリカをながめて 1	○北アメリカ州の歴史と自然環境を大観し、北アメリカを構成する主な国々の位置と名称を理解する。 ○北アメリカ州の地勢図から、主な自然地名や国々の位置と名称を読み取ることができる。	北アメリカ州の地勢と国々に対する関心を高め、北アメリカ州の歴史や自然環境の特色をとらえようとしている。	「北アメリカ各地の気温と降水量」から、北アメリカ州の気候の地域的特色を説明している。	「北アメリカの地勢と国々」から、主な自然地名や国々の位置と名称を読み取り、「アメリカ合衆国の領土の拡大」から、開拓の歴史を読み取っている。	北アメリカ州の歴史と自然環境の特色を理解し、北アメリカを構成する主な国々の位置と名称を理解している。
	②世界の食料庫 1	○アメリカ合衆国が世界最大の農産物輸出国であり、大規模な適地適作の農業経営が行われていることを理解する。 ○アメリカ合衆国の自然環境と農業地域の分布の関係について考え、表現できる。	アメリカ合衆国の農業に対する関心を高め、とらえようとしている。	アメリカ合衆国の自然環境や社会条件と、農業地域の分布の関係について考察し、説明している。	「アメリカ合衆国が輸出量で第一位を占める主な農産物の国別割合」から、アメリカ合衆国が世界最大の農産物の輸出国であることを読み取っている。	アメリカ合衆国が世界最大の農産物輸出国であり、大規模な適地適作の農業経営が行われていることを理解している。
	③世界の最先端をゆく工業 1	○豊富な資源を背景としたアメリカ合衆国の工業生産と工業地域の特色を理解する。 ○重化学工業から、新しい工業分野の発展へと移り変わるなかで、先端技術を生かした産業が発達した理由について考え、表現できる。	アメリカ合衆国の工業生産と工業地域に対する関心を高め、その特色をとらえようとしている。	重化学工業から、新しい工業分野の発展へと移り変わるなかで、先端技術を生かした産業が発達した理由について考察し、説明している。	「アメリカ合衆国とその周辺の主な鉱産資源と工業都市の分布」と本文から、アメリカ合衆国の工業の分布を読み取っている。	豊富な資源を背景としたアメリカ合衆国の工業生産と工業地域の特色を理解している。
	④都市生活とアメリカ文化 1	○アメリカ合衆国の都市生活や合理的な文化の特色を知り、世界中に影響を与えていることを理解する。 ○身近な生活のなかに、どのようなアメリカ文化がみられるのかを考え、表現できる。	アメリカ合衆国の都市生活や合理的な文化に対する関心を高め、その特色や世界の生活に影響を与えていることをとらえようとしている。	私たちの身近な生活のなかに、どのようなアメリカ文化がみられるのかを考察し、説明している。	「アメリカのハンバーガー会社の店舗の広がり」から、アメリカ文化が世界に広がっていることを読み取っている。	アメリカ合衆国の都市生活や合理的な文化の特色を知り、それらが世界中に影響を与えていることを理解している。
	⑤多民族の共存と貧困 1	○アメリカ合衆国とカナダを例に、多民族・多文化からなる社会の特色について理解する。 ○アメリカ合衆国を例に、人種・民族に関する問題や貧困の問題について関心をもち、調べようとする態度を養う。	アメリカ合衆国を例に、人種・民族の差別に関する問題や貧困の問題に対する関心を高め、とらえようとしている。	多民族・多文化が共存するためには、どのような課題があるかを考察し、説明している。	「アメリカの人種・民族の分布と主な都市圏の人口構成」から、地域によって人口構成の違いがみられることを読み取っている。	アメリカ合衆国とカナダを例に、多民族・多文化からなる社会の特色について理解している。
特設 世界に展開する軍 事力 (1)	○アメリカ合衆国のもつ強大な軍事力や、その世界各地への展開について理解する。 ○アメリカ軍基地の展開によって、その地域に与える影響について関心をもち、調べようとする態度を養う。	アメリカ合衆国のもつ強大な軍事力やその各地への展開に対する関心を高め、その地域に与える影響についてとらえようとしている。	アメリカ軍基地の展開によって、その地域に与える影響について考察し、説明している。	「世界に駐留するアメリカ合衆国の兵力」から、アメリカ合衆国の兵力が世界各地に駐留していることを読み取っている。	アメリカ合衆国のもつ強大な軍事力や、その世界各地への展開、その地域に与える影響について理解している。	

編	章・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用技能	社会的事象についての知識・理解
第1編 世界のさまざまな地域	●節の評価規準					
	第3章 世界の諸地域 5 南アメリカの開発と環境 4	○南アメリカ州の地域を大観し、その上で開発と環境を主題として設定し、地域的特色を理解する。	南アメリカ州の地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。	南アメリカ州の開発と環境を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	南アメリカ州の地域的特色に関するさまざまな資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	南アメリカ州の開発と環境をもとに地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。
	●各単元の評価規準					
	①南アメリカをながめて 1	○南アメリカ州の自然環境と歴史を大観し、南アメリカを構成する主な国々の位置と名称を理解する。 ○南アメリカ州の地勢図から、主な自然地名や国々の位置と名称を読み取ることができる。	南アメリカ州の地勢と国々に対する関心を高め、南アメリカ州の自然環境と歴史の特色をとらえようとしている。	「南アメリカ各国の主な言語と人口構成」から、南アメリカ州の人口構成の地域的特色を説明している。	「南アメリカの地勢と国々」から、主な自然地名や国々の位置と名称を読み取っている。	南アメリカ州の自然環境と歴史の特色を理解し、南アメリカを構成する主な国々の位置と名称を理解している。
	②南アメリカの農業と開発 1	○南アメリカの農業とその変化、アマゾン川流域の開発と環境破壊について理解する。 ○アマゾン川流域の熱帯雨林に関心をもち、農業やバイオ燃料との関係について調べようとする態度を養う。	南アメリカの農業や農地の開発に対する関心を高め、バイオ燃料などの特色や課題などについてとらえようとしている。	「ブラジルの森林面積の変化」、 「世界の森林面積にみる増減変化率の分布」から、地域による森林面積の減少の違いを説明している。	「宇宙からとらえたアマゾン川流域の森林面積の変化」から、アマゾン川流域の森林減少の景観を読み取っている。	南アメリカの農業とその変化、アマゾン川流域の開発と環境破壊について理解している。
	③南アメリカの都市が抱える環境問題 1	○ペルーを例に、都市化が進む理由と都市化による問題について理解する。 ○南アメリカの各国が抱える経済格差の問題について考え、表現できる。	南アメリカの人口移動に対する関心を高め、それにとまなう課題をとらえようとしている。	南アメリカ各国の都市が抱える問題の特色について考察し、説明している。	「世界の各州にみる都市人口の割合」、 「南アメリカ各国のスラムの人口」から、南アメリカの国々では都市化が進み、スラムの人口が多いことを読み取っている。	ペルーを例に、都市化が進む理由と都市化による問題について理解している。
	④南アメリカの経済開発と社会 1	○南アメリカ各国における豊富な鉱産資源などによる工業化と経済発展について理解する。 ○南アメリカの多文化社会とその歴史的背景について考え、表現できる。	南アメリカの経済開発や文化に対する関心を高め、その特色をとらえようとしている。	南アメリカの多文化社会とその歴史的背景について考察し、説明している。	「南アメリカの資源と、主な国の輸出品目構成」から、南アメリカの各国の経済の状況を読み取っている。	南アメリカの各国の工業化と経済発展、多文化社会について理解している。
特設 移動する人々ー日系移民の苦難の歴史 (1)	○日本から南アメリカへ移動した、日系移民の人たちの歴史について理解する。 ○日系移民の人たちについて関心をもち、移住先での暮らしなどについて調べようとする態度を養う。	日系移民の人たちについて関心を高め、移住先での暮らしなどについてとらえようとしている。	南アメリカへの移民が開始された理由について、当時の時代背景と関連づけて説明している。	日本から南アメリカへ移動した、移民の人たちの歴史を、年表にまとめている。	日本から南アメリカへ移動した、移民の人たちの歴史について理解している。	

編	章・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第1編 世界のさまざまな地域	●節の評価規準					
	第3章 世界の諸地域 6 他地域と結びつくオセアニア 3	○オセアニア州の地域を大観し、その上で他地域との結びつきを主題として設定し、地域的特色を理解する。	オセアニア州の地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。	オセアニア州の他地域との結びつきをもとに多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	オセアニア州の地域的特色に関するさまざまな資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	オセアニア州の他地域との結びつきをもとに地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。
	●各単元の評価規準					
	①オセアニアをながめて 1	○オセアニア州の位置や歴史、自然環境を大観し、オセアニアを構成する主な国々の位置と名称を理解する。 ○オセアニア州の地勢図から、主な自然地名や国々の位置と名称を読み取ることができる。	オセアニア州の地勢と国々に対する関心を高め、オセアニア州の歴史や自然環境の特色をとらえようとしている。	オセアニア州がヨーロッパ州の強い影響を受けている理由を考察し、説明している。	「オセアニアの地勢と国々」から、オセアニア州の東と西に位置する州名を書き表している。	オセアニア州の位置と自然環境、地域区分名、オセアニア州を構成する主な国々の位置と名称を理解している。
	②多文化主義の社会を目ざして 1	○オーストラリアを例に、植民地化の歴史と先住民族の人たち、外交政策の変化について理解する。 ○オーストラリアへ移住する移民の出身地から、他地域との結びつきの変化について考え、表現できる。	オーストラリアを例に、植民地化の歴史に対する関心を高め、先住民族の人たち、外交政策の変化についてとらえようとしている。	「オーストラリアへの移民の出身国別人口の変化」から、他地域との結びつきの変化について考察し、説明している。	「オーストラリアの農業地域の分布」、「オーストラリアの人口分布」から、農業や牧畜が行えるのは、海岸沿いの地域であり、都市や人口もそこに集中していることを読み取っている。	オーストラリアを例に、植民地化の歴史と先住民族の人たち、外交政策の変化について理解している。
	③アジアとつながるオセアニア 1	○オセアニアの国々が、これまでのヨーロッパ諸国から、日本などアジアの国々との結びつきを強めていることを理解する。 ○オセアニアの観光による他地域との結びつきとその課題について関心をもち、調べようとする態度を養う。	オセアニアの他地域との結びつきの変化とその課題に対する関心を高め、とらえようとしている。	オーストラリアを例に、オセアニアの国々が、これまでのヨーロッパ諸国から、日本などアジアの国々との結びつきを強めていることとその理由について考察し、説明している。	「オーストラリアとニュージーランドの貿易相手先」から、アジアやアメリカ合衆国が現在の主な貿易相手先であること、「オーストラリアの輸出相手国の変化」から、オーストラリアの輸出相手国が以前のヨーロッパ中心から変化してきたことを読み取っている。	オセアニアの国々が、これまでのヨーロッパ諸国から日本などアジアの国々との結びつきを強めていることを理解している。
特設 変わる「楽園」の暮らし － 太平洋の島々 (1)	○サモアやパプアニューギニアを例に、島々からなる国の暮らしと、外国との結びつきを強めていることを理解する。 ○外国との結びつきが深まることによって、伝統的な暮らしがどのように変化したのかを考え、表現できる。	サモアやパプアニューギニアを例に、島々からなる国の暮らしに対する関心を高め、外国との結びつきについてとらえようとしている。	サモアやパプアニューギニアを例に、外国からの援助などの結びつきを考察し、外国との結びつきが深まることによって、伝統的な暮らしがどのように変化したのかを説明している。	「教会の日曜学校に集まる子どもたち」から、人々がキリスト教を信仰しており、ヨーロッパ文化の影響を受けていることを読み取っている。	サモアやパプアニューギニアを例に、島々からなる国の暮らしと、外国からの援助などの結びつきを強めていることを理解している。	

編	章・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第1編 世界のさまざまな地域	●章の評価規準					
	第4章 世界のさまざまな地域の調査 5	○世界のさまざまな地域について、その特色をとらえる適切な主題を設けて追究し、世界の地理的認識を深める。また、世界のさまざまな地域調査における視点と方法を身に付ける。	世界のさまざまな地域の調査とその地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。	世界のさまざまな地域の地域的特色をとらえる適切な主題を設定し、世界のさまざまな地域の調査を行う際の視点や方法をもとに多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	世界のさまざまな地域の調査とその地域的特色に関するさまざまな資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。	世界のさまざまな地域の調査について、地域的特色とともに世界のさまざまな地域の調査を行う際の視点や方法を理解し、その知識を身に付けている。
	●各単元の評価規準					
	①調べる地域とテーマを決めよう 1	○地域調査の活動にあたって、調査対象の地域や国と、調査の主題（テーマ）を決める。 ○調査対象の地域を概観するために、地勢図から国名や自然地名、自然環境などを読み取る。	これまで学習したり、教科書や地図帳、各種の地図や文献、新聞やテレビなどから興味・関心を抱いた地理的事象を基に、その地域の地域的特色をとらえる適切な主題を決めようとしている。	調査対象の地域や国の地勢図から、地形や気候など自然環境の様子を文章で説明している。	調査対象の地域や国の地勢図から国名や自然地名、自然環境などを読み取り、面積や人口などの基本的情報を図表などにまとめている。	調査の主題（テーマ）に基づいた世界の地域や国の調査をするための視点や方法を身に付けている。
	②地域の多様なすがたを調べよう 1	○調べる主題に応じて、地域の歴史、社会、文化などの基本的な地域情報を、多面的に調べる方法を身に付ける。 ○さまざまな資料から、調査対象の地域や国の特色を読み取る。	調べる主題に応じて、地域の歴史、社会、文化などの基本的な地域情報に対する関心を高め、多面的に調べようとしている。	調べる主題に応じて、地域の歴史、社会、文化などの基本的な地域情報を、多面的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	景観写真や図、グラフなどの資料から、調査対象の地域や国の特色を読み取っている。	調べる主題に応じて、地域の歴史、社会、文化などの基本的な地域情報を、多面的に調べる方法を身に付けている。
	③人口と都市の暮らしについて調べよう 1	○調べる主題に応じて、人口や都市、人々の暮らしの変化を調べる方法を身に付ける。 ○景観写真の読み取りや主題図どうしの比較・関連などから、人口や都市に関する地域情報を調べる方法を身に付ける。	調べる主題に応じて、人口や都市、人々の暮らしの変化に対する関心を高め、多面的に調べようとしている。	調べる主題に応じて、人口や都市、人々の暮らしの変化を、多面的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	景観写真の読み取りや主題図どうしの比較・関連などから、人口や都市などの地域情報を読み取っている。	調べる主題に応じて、人口や都市、人々の暮らしの変化を、多面的に調べる方法を身に付けている。
④地域や国の課題を調べよう 2	○調べる主題に応じて、地域の国々にみられる課題を調べ、まとめる方法を身に付ける。 ○調査内容をレポートなどの形式にまとめる。また、調査活動を振り返り、調査の進め方や、その視点と方法などを確認する。	調べる主題に応じて、調査対象の地域や国にみられる課題を意欲的に調べ、調査内容を意欲的にまとめようとしている。	調べる主題に応じて、調査対象の地域や国にみられる課題を考察したり、調査活動を振り返り、調査の進め方や、その視点と方法などを説明している。	調査対象の地域や国についての調査内容をレポートやパソコンによるプレゼンテーションなどの形式にまとめている。	調べる主題に応じて、調査対象の地域や国にみられる環境問題や社会問題について調べ、まとめる方法を身に付けている。	

編	章・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第2編 日本のさまざまな地域	●章の評価規準					
	第1章 日本の地域構成 5	○地球儀や地図帳を活用し、日本の国土の位置、世界各地との時差、領域の特色と変化、地域区分などを理解し、日本の地域構成を大観する。	日本の地域構成に対する関心を高め、それらを意欲的に追究し、とらえようとしている。	日本の地域構成を、国土の位置、世界各地との時差、領域の特色と変化、地域区分などをもとに多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	地球儀や地図など日本の地域構成に関するさまざまな資料から、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	日本の地域構成について、国土の位置、世界各地との時差、領域の特色と変化、地域区分などを理解し、その知識を身に付けている。
	●各単元の評価規準					
	①世界のなかの日本の位置 1	○世界における日本の位置を理解し、絶対的位置や相対的位置の方法によって表現できる。 ○時差のしくみを理解し、世界各地との時差の計算によって、日本の位置について表現できる。	世界地図や地球儀を見ながら、日本の位置を絶対的位置や相対的位置の方法を用いてとらえようとする。また、世界各地には、それぞれの地域によって時刻があり、その時刻で生活していることに気づき、時差が生じていることに興味をもつ。	世界のなかで日本の位置を理解し、絶対的位置や相対的位置を的確に表現している。また、時差のしくみを理解でき、世界各地との時差の計算によって日本の位置を説明している。	世界地図や地球儀を用いて、日本の絶対的位置を読み取っている。また、時差を計算することで、日本の位置を世界全体のなかで把握している。	絶対的位置や相対的位置を示す方法や、時差のしくみを理解し、活用している。
	②日本の国土の広がり 1	○日本の領域は多くの島々(領土)と領空・領海からなり、海に囲まれた海洋国家であることを理解する。 ○領海の外側に排他的経済水域が設けられていること、日本の領域が時代とともに変化してきたことについて関心をもち、調べようとする態度を養う。	日本の地域構成を、領域の特色とその変化をもとに考察し、領域に対する関心を高め、それらを意欲的に追究し、とらえようとしている。	日本の領域の特色とその変化を理解し、日本と大陸との関係について適切に説明している。	「日本の領土・領海と排他的経済水域」から、日本の領域の広がりや国境の島々を読み取り、近隣諸国との位置関係を説明している。	日本の領域の広がり、歴史的背景について大観し、理解している。
	③日本の領土をめぐる 1	○北方領土、竹島と尖閣諸島について、日本と周辺国との間に領土をめぐる対立が生じていることを理解する。 ○北方領土、竹島と尖閣諸島について、具体的な位置関係を把握するとともに、歴史的背景について関心をもち、調べようとする態度を養う。	北方領土、竹島と尖閣諸島について、日本と周辺国との間に生じている領土をめぐる対立について関心を高め、それらについて追究し、とらえようとしている。	北方領土、竹島と尖閣諸島について、日本及び周辺国も含めた歴史的背景について適切に説明している。	「北方領土とその周辺」「竹島、尖閣諸島の位置」から、各々の位置関係について読み取り、近隣諸国との位置関係について説明している。	北方領土、竹島と尖閣諸島をめぐる対立について理解し、その位置関係・歴史的背景について把握し、平和的な解決を旨とする重要性について理解している。
	④47の都道府県 1	○47都道府県と都道府県庁所在地名について確認し、その成り立ちについて整理して理解する。 ○47都道府県の都道府県庁所在地名について、その成り立ちを含めて理解し、自然的・社会的条件を設定して共通性を考えたりして、表現できる。	47都道府県の位置と名称、各都道府県庁所在地の名称、7地方区分の地方名などを工夫して覚えようとするなど、意欲的に追究し、とらえようとしている。	47都道府県とそれを基にした7地方区分について、それぞれの位置と名称を適切に表現している。	「都道府県庁所在地と成り立ち」から、多くの県庁所在地が城下町に由来していること、その他の都市類型との違いについて、図表などにまとめたりしている。	47都道府県の位置と名前、各県庁所在地の名前、7地方区分の名前と位置を正確に示すことができる。
	⑤さまざまな地域区分 1	○日本の行政区分の変化や、目的に応じてさまざまな地域区分ができることを理解する。 ○さまざまな地域区分図から、それぞれの区分の特色について読み取ることができる。	日本の地域は、等質の面や機能の面などから目的に応じてさまざまな区分ができることを意欲的に追究し、とらえようとしている。	日本の行政区分について、歴史的な変化を地図を基に表現している。また、地域区分はその目的に応じて多様に設定できる便宜的なものであることを判断できる。	「古代の五畿七道による区分」、 「昔の国の区分」から、現在の都道府県の区分との違いについて読み取っている。	山梨県の例にあるように、その目的に応じて多様な地域区分が設定できることを理解している。
	地理にアプローチ 日本の略地図を描こう (1)	○日本のおおまかな略地図を描くことができる。 ○これまで学習した内容を、日本の略地図を使ってまとめることができる。	日本のおおまかな略地図を描く方法に関心を高め、その描く方法やそれを用いて、これまで学習した内容を意欲的にまとめようとしている。	省略された日本地図を描くポイントを考察し、説明している。また、これまで学習した内容を略地図を用いて表現している。	北緯35度の緯線や東経135度の経線に留意し、北海道・本州・四国・九州・沖縄の島々の形状や位置関係をバランスよくとらえて、日本の略地図を描いている。	日本を構成する主な島々の名称をあげながら、島々の形状や位置関係をバランスよくとらえている。

編	章・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用技能	社会的事象についての知識・理解
第2編 日本のさまざまな地域	●章の評価規準					
	第2章 世界からみた日本のすがた 11	○世界的視野や日本全体の視野からみた日本の地域的特色を理解し、日本の国土の特色をさまざまな面から大観する。	世界と比べた日本の地域的特色に対する関心を高め、それらを意欲的に追究し、とらえようとしている。	世界と比べた日本の地域的特色を、世界的視野や日本全体の視野からみた自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、地域間の結びつきをもとに多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	世界と比べた日本の地域的特色に関するさまざまな資料から、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	世界と比べた日本の地域的特色について、世界的視野や日本全体の視野からみた自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、地域間の結びつきを理解し、その知識を身に付けている。
	●各単元の評価規準					
	①変動する大地と安定した大地 1	○世界の中で日本が不安定な地盤に位置することや、環太平洋造山帯に位置することを理解する。 ○世界の火山や地震源の分布図から、日本が火山・地震活動が活発な場所にあることや、その理由について考え、読み取ることができる。	世界には火山・地震活動が活発な造山帯と、活動の少ない安定した大陸があることに興味をもち、地球規模での地形の動きをとらえようとしている。	プレートテクトニクスについての基礎的な知識と関連するメカニズムについて、図解などを用いて適切に表現している。	「世界の主な火山と地震源の分布」と121・124ページ(折込)の「世界の地形を表した地図」とを関連させて、主な山脈や海溝の分布の特色を読み取っている。	二つの造山帯とその特色、世界の山脈・地震・火山の分布などを、プレートテクトニクスのメカニズムと関連付けて理解し、その知識を身に付けている。
	②変化に富む日本列島の地形 1	○日本の山地や火山、平野や河川の分布とそれらの名称を理解する。 ○山地や平野の成因や扇状地と三角州の違い、日本の河川の特徴、海岸線にみられるさまざまな環境について理解する。	日本周辺の海流、日本の主な山地や平野の分布に興味をもち、それらの分布や成因をとらえようとしている。	日本の主な地形の分布や形成のしくみ、人間活動との関わりについて考察し、それらを説明している。	「日本の主な山脈・山地、火山の分布」、「日本の主な平野・平地、河川の分布」と、122・123ページ(折込)の「宇宙からとらえた日本列島」とを比較して、主な地形の分布を読み取り、白地図や略地図にまとめている。	日本の主な山地・山脈や平野・河川の分布、扇状地・三角州の成因、海岸の種類など、地形からみた地域的特色について理解している。
	③地形図を使って地形をみていこう 1	○地形図に表現される方位、地図記号、等高線のしくみについて覚え、それぞれの読み取りの技能を身に付ける。 ○地形図上で読み取ることのできる地理的な情報を言語化し、文章に表現できる。	さまざまな地図記号に関心をもち、地形図のきまりや読み取り方について意欲的に調べようとしている。	地形図上の方位、地図記号、等高線など地理的な情報をもとに、身近な地域の様子について文章で表現している。	「地形図から断面図をつくろう」「地形図の読み取りにチャレンジしよう」から、指示された作業を行い、わかったことを文章にまとめたりしている。	地形図上の方位、地図記号、等高線のしくみについて理解し、それをもとにさまざまな自然環境を読み解いていく技術を知識として身に付けている。
	④四季のある気候 1	○世界には五つの気候帯が広がり、日本は温帯に属していること、日本は六つの気候に区分できることについて理解する。 ○日本の気候区分図から、各地域の気候の特色について考え、表現できる。	日本の気候について関心をもち、世界の気候帯の中における位置づけや、日本国内の気候の違いを調べようとしている。	気候は緯度や海流などが影響を与え、植生・景観の違いが現れること、日本の気候は季節風によって変化が生じたり、梅雨や台風などが発生することを説明している。	23～35ページの学習と関連づけながら、各地の気温と降水量のグラフや気候区分図を読み取ったり、各気候と緯度や海流との関係をまとめたりしている。	世界の気候帯や日本の気候区分について、地図を活用して示すことができ、各地の気候の成因について理解し、その知識を身に付けている。
⑤自然がもたらす災害と向き合う 1	○日本で発生するさまざまな自然災害と、そのしくみなどの特徴を理解する。 ○さまざまな自然災害に対して、対策が行われていることについて考え、文章に表現できる。	日本列島は地質の上で不安定な場所に位置するため火山や地震、津波が頻発し、また、多雨による河川の洪水なども発生しやすいことをとらえようとしている。	兵庫県南部地震、東北地方太平洋沖地震などを事例に、地震発生のしくみやそれによる社会に与える被害について適切に表現している。	「日本周辺の主な地震と活断層の分布図」から、プレートや活断層の分布との関係を読み取ったり、火砕流・土石流などの災害の種類についてまとめたりしている。	地震や津波、火砕流や土石流などのさまざまな自然災害の種類について理解し、その知識を身に付けている。	

編	章・学習項目	学習のねらい	社会的現象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的現象についての知識・理解
第2編 日本のさまざまな地域	⑥災害から身を守るために 1	○さまざまな災害から身を守るための、国や各地方公共団体、地域社会のしくみを理解する。 ○ハザードマップと東日本大震災を例として、さまざまな災害への対応、支援、復興への対策について考え、表現できる。	東日本大震災を例として、被災地域ではどのような被害があり、支援策が講じられたかなどについて興味をもち、とらえようとしている。	自然災害から身を守るための考え方として、防災と減災、公助・自助・共助という言葉についてまとめ、説明している。	「被災した地域を支援する公的なしくみ」から、東日本大震災時の支援についてその動きを読み取ったり、「地理の窓」から読み取った内容についてまとめたりしている。	災害時の対応や支援、復興について、東日本大震災などの事例をもとに理解し、その知識を身に付けている。
	⑦世界の人口分布と変化 1	○世界の人口分布と自然環境との関係、先進国と発展途上国による人口変化の違いなどについて理解する。 ○人口ピラミッドから、その国や地域の人口構成の特色を読み取ったり、説明したりすることができる。	世界の人口密度を示した図からアジアやヨーロッパに人口が集中していること、世界の人口の変化のグラフから世界の人口は増加し続け、特に産業革命以後に急速に増加してきていることをとらえようとしている。	人口密度の分布と自然環境の関係、先進国と発展途上国の人口変化の違いなど、人口に関連する事象について考察し、その関係や結果を説明している。	「世界の人口密度」や「世界の人口の変化」、「国別の人口構成の例、日本の人口構成の変化」から、世界的な人口の動向と人口ピラミッドの意味を把握し、文章などにまとめている。	世界の人口は増加し続けていること、地域によって偏在していること、人口密度や人口ピラミッドからその地域の人口の特色がわかることを理解している。
	⑧日本の人口分布と課題 1	○日本の人口分布について、三大都市圏などの過密地域と、過疎地域がみられることを理解する。 ○日本の少子化・高齢化によって、今後予想される課題について考え、表現できる。	日本の人口分布が三大都市圏や地方中枢都市を中心に集中していることに関心をもち、過密・過疎の問題や少子化・高齢化が進んでいることをとらえようとしている。	日本の過密・過疎の問題と少子化・高齢化について、なぜそうした傾向が生じるのか、今後どのような課題が予想されるのか、さまざまな観点から考察している。	「日本の人口密度の分布」、「日本の過疎地域の分布とその割合」から、それらの地域的特色を読み取ったり、「過密地域と過疎地域の年齢別人口構成」から過密地域と過疎地域の人口構成の違いについて文章などにまとめている。	日本の人口分布には過密・過疎の問題がみられること、人口構成では少子化・高齢化が進み、さまざまな課題が予想されていることを理解し、その知識を身に付けている。
	⑨資源・エネルギーのかたよる分布 1	○世界の資源の分布や、日本は外国からの資源輸入に依存していることを理解する。 ○発電方法の種類と再生可能なエネルギーについて考え、表現できる。	世界の資源分布とその消費には地域的な偏りがみられ、日本は外国からの輸入に頼っていることに関心をもち、自分でテーマを設定して、それをとらえようとしている。	世界全体の資源・エネルギーの消費量が増え続けている中で、環境保全と経済発展をどのように両立させていくのかなど、持続可能な利用について考察している。	「各国の発電エネルギー源別の割合」から国による構成割合の違いを読み取ったり、「日本の主な発電所」などから各発電所の立地について自然的条件や社会的条件とともに図表にまとめたりしている。	世界の資源分布には偏りがあり、日本は多くの資源について輸入に頼っていることや、国内の発電所の立地についてその特色や課題を理解している。
	⑩産業の構成とその変化 1	○日本の産業別人口割合が大きく変化してきたことについて理解する。 ○日本の各産業の特色について、その理由などについて考え、表現できる。	経済からみた世界の中の日本の位置について関心をもち、産業別人口の割合の推移から産業ごとの人口が歴史的に変化してきたことについてとらえようとしている。	「日本の産業別人口構成の割合の変化」から、日本の産業構造の変化を考察し、各産業の現状とその要因について適切に表現している。	「各国の一人当たり国民総所得と、主な国の産業別人口の割合」、「日本の産業別人口構成の割合の変化」から日本が先進国であり、第三次産業が中心であることを読み取り、特色を文章などにまとめている。	日本の産業は第二次世界大戦後に急激に変化し、経済の情報化やサービス化が進んでいることについて理解している。
	⑪結びつきを強める世界と日本 1	○世界の国々は交通や通信、貿易によって強く結びついてきており、人の移動も増えてきたことを理解する。 ○主題図から、国内の時間距離が短縮されてきたことや、交通網が発達してきたことを読み取ることができる。	ICTの発達により社会生活が変化しつつあることに気づき、情報化が進んだことに関心をもち、どのような結びつきがあるかをとらえようとしている。	世界全体として交通網やICTの発達による結びつきや、貿易や通信などの発達にはさまざまな格差がみられることを考察している。	「世界の主な航空路線」から、日本は北アメリカやアジアをはじめとした世界各地と結びついていること、「東京から各地への時間距離からみた日本地図の変化」から、変化の大きい地域と小さい地域があることを読み取り、文章にまとめている。	交通・通信の技術の発達によって、世界各地と日本が結びつきを強めてきていることや、その結びつきには先進国と発展途上国などによる地域的な違いがみられることを理解している。

編	章・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第2編 日本のさまざまな地域	●節の評価規準					
	第3章 日本の諸地域 1 九州地方～環境問題と環境保全を中心に考えよう 5	○地域の環境問題や環境保全の取り組みを中核として、それを産業や地域開発の動向、人々の生活などと関連づけ、持続可能な社会の構築のためには地域における環境保全の取り組みが大切であることなどについて考察する。	九州地方の地域的特色に対する関心を高め、それらを意欲的に追究し、とらえようとしている。	九州地方の地域的特色を、環境問題や環境保全を中核とした考察の仕方をもとに多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	九州地方の地域的特色に関するさまざまな資料から、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	九州地方について、環境問題や環境保全を中核とした考察の仕方をもとに地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。
	●各単元の評価規準					
	①多様な自然環境に恵まれた地域 1	○九州地方の位置と自然環境を大観し、構成する県の位置と名称を理解する。 ○九州地方の地勢図から、主な自然地名や各県、主な都市の位置と名称を読み取ることができる。	九州地方を大観し、諫早湾干拓や世界自然遺産に登録されている屋久島から、環境問題や環境保全に対して興味をもち、とらえようとしている。	九州地方の位置が中国や韓国と近いために歴史的な結びつきが深いことを理解し、また、諫早湾の干拓と環境への影響などを考察し、適切に説明している。	九州地方の位置や構成する県、主な自然地名を読み取ったり、屋久島の自然環境や保全などについて、地形図なども用意して読み取ったり、図表などにまとめたりしている。	九州地方の位置と自然環境を大観し、構成する県の位置と名称を理解している。また、日本の南西部に位置するため温暖な気候にあり、台風の被害を受けやすいことなどを理解している。
	②さんご礁の海を守る 1	○南西諸島の自然環境と歴史の特色、観光開発による環境への影響について理解する。 ○さんご礁の白化現象と保護活動の例から、観光開発と環境保全の関係について考え、表現できる。	南西諸島のさんご礁の保護や産業について関心を高め、観光開発による影響と保全の活動などについて、とらえようとしている。	さんご礁の環境破壊の要因を考察し、環境保全活動などを通して、それらの意義を適切に表現している。	「石垣島白保地区のさんご礁」から、豊かな自然環境を読み取ったり、自然と共生してきた地域の産業や歴史についてまとめたりしている。	南西諸島の自然環境と沖縄の歴史をとらえ、さんご礁の保護活動の例から、観光開発と環境保全の関係について理解している。
	③火山とともに暮らす 1	○九州地方に火山が集中していることや、火山が人々の暮らしに及ぼす影響について理解する。 ○桜島の火山活動を例に、地域の人々の対応や火山の利用について考え、表現できる。	火山は地域にどのような影響を及ぼすのか、どのような長所・短所があるのかを知り、不利な点をどのように克服しているのかについてとらえようとしている。	シラス台地の特色を調べ、それが人々の生活にどのような影響を与え、またどのように対応しているのかを説明している。	「九州地方の主な火山分布」から、九州には火山が多く分布していることを読み取っている。	九州地方に火山が集中していることや、桜島などを事例として火山が人々の暮らしに及ぼす影響や対応について理解している。
	④環境を守る循環型の農業 1	○九州地方では自然環境を生かした畜産業が盛んであり、循環型農業などが行われていることを理解する。 ○阿蘇山の野焼きを例に、人間が積極的に関わる環境保全のあり方について考え、表現できる。	阿蘇山の野焼きによる環境保全のあり方や循環型農業などに興味をもち、とらえようとしている。	九州地方が全国有数の畜産地域となっていく過程を理解し、また外国産の安い肉類に対抗するためにどのような努力をしたのかを説明している。	「主な家畜の都道府県別の飼育頭数の割合」、「都道府県別の畜産生産」から、九州地方の畜産業について全国と比較しながら読み取っている。	阿蘇山の野焼きを例に、人間が積極的に関わる環境保全のあり方に気づき、九州地方では自然環境を生かした畜産業が盛んであることや、循環型農業が取り組まれていることについて理解している。
	⑤煤煙の街からエコタウンへ 1	○九州地方の工業生産の特色と公害の発生、エコタウン事業について理解する。 ○北九州市を例に、公害とその克服の取り組みについて考え、表現できる。	北九州市の大気汚染、水質悪化の解消のあゆみやエコタウン事業の実際を知り、ゼロ・エミッションへの取り組みやその努力の様子に興味をもち、とらえようとしている。	北九州市と市民の公害対策のあゆみを調べ、どのようにして改善し、ゼロ・エミッションの取り組みが進んでいったのかを説明している。	「エコタウン事業が進められる地域」から全国各地の環境保全の取り組みの状況、「九州地方の主な工業の分布」から北九州工業地域を中心とした工業生産を読み取っている。	北九州市の公害の発生とその克服の取り組みを事例として、九州地方の工業生産の特色、エコタウン事業についての知識を身に付けている。
特設 公害を乗り越えて (1)	○水俣市で発生した公害病と、その教訓を生かした環境モデル都市としての活動について理解する。 ○日本各地の公害について関心をもち、現在の対策や状況などについて調べる態度を養う。	水俣病の原因やその経過に興味をもち、その後の水俣市の「環境モデル都市づくり宣言」の内容やその取り組みについて興味をもち、とらえようとしている。	水俣病の原因やその経過、被害の実態を調べながら、水俣市がその後どのように公害防止に取り組み、具体的な政策を行ったかを説明している。	いわゆる四大公害を中心とした日本各地の公害の発生状況を読み取り、水俣市やその他の地域も含めた環境改善に向けた取り組みについて調べ、まとめようとしている。	水俣市で発生した公害病と、その教訓を生かした環境モデル都市としての活動を事例として、日本各地の公害について関心をもち、現在の対策や状況などについて理解している。	

編	章・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第2編 日本のさまざまな地域	●節の評価規準					
	第3章 日本の諸地域 2 中国・四国地方～人口や都市・村落を中心に考えよう 5	○地域の人口の分布や人口動態、都市・村落の立地や機能に関する事象を中核として、それを人々の生活や産業などと関連づけ、過疎・過密問題の解決が地域の課題となっていることなどについて考察する。	中国・四国地方の地域的特色に対する関心を高め、それらを意欲的に追究し、とらえようとしている。	中国・四国地方の地域的特色を、人口や都市・村落を中核とした考察の仕方をもとに多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	中国・四国地方の地域的特色に関するさまざまな資料から、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	中国・四国地方について、人口や都市・村落を中核とした考察の仕方をもとに地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。
	●各単元の評価規準					
	①人口分布のかたよる地域 1	○中国・四国地方の位置と自然環境を大観し、構成する県の位置と名称を理解する。 ○中国・四国地方の地勢図から、主な自然地名や各県、主な都市の位置と名称を読み取ることができる。	瀬戸内海の沿岸地域が古くから交通の要所であることに興味をもち、中国・四国地方の位置と自然環境を大観し、構成する県の位置と名称をとらえようとしている。	中国・四国地方の人口分布からその特色を考察し、その特色が歴史的な要因と密接に関連していることを説明している。	中国・四国地方の位置や構成する県、主な自然地名、主な都市の位置と名称を読み取ったり、「中国・四国地方の人口分布」から分布の様子を文章などにまとめたりしている。	中国・四国地方の位置と自然環境を大観し、構成する県の位置と名称を理解するとともに、人口の分布の特色から三つの地域に区分できることを理解している。
	②中国・四国地方の中心 広島 1	○中国・四国地方において地方中枢都市となっている、広島市の都市化によって起こる課題について理解する。 ○地形図の新旧比較から、広島市の都市の発達について歴史的な変化を読み取ることができる。	広島市の歴史を調べる中で、城下町から軍都、原子爆弾の投下を経て政令指定都市、現在の地方中枢都市となるまでの変遷に興味をもち、とらえようとしている。	明治時代に軍都となった理由を、交通の要所であったことや、アジアでの広島的位置関係から多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	新旧地形図の比較から、広島市の都市の発達について歴史的な変化を読み取ることができ、文章などにまとめようとしている。	中国・四国地方では広島市が地方中枢都市となっており、広島市の都市化によって起こる課題について理解している。
	③人口減少と地域の悩み 1	○中国山地の農村などで人口減少が続いており、過疎化にともなう課題がみられることを理解する。 ○島根県大田市を例に、人口構成の特色と地域の活性化について考え、表現できる。	中国山地の農村での人口減少が地域にどのような影響を与え、さまざまな課題をもたらしているのかをとらえようとしている。	島根県大田市を例に、人口構成の特色と地域の活性化について考え、その課題にどのように取り組むかについて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	「都道府県別の人口増減率」、「中国・四国地方の市区町村別の人口増減率の変化」から、日本全体と中国・四国地方の地域的特色やその動向を読み取っている。	中国山地の農村などで人口減少が続いており、耕作放棄地の拡大など過疎化にともなう課題がみられることを理解している。
	④地域おこしの知恵 1	○過疎地域における、地域おこしや人々の努力の事例について理解する。 ○高知県馬路村や徳島県上勝町を例に、地域おこしについて関心をもち、各地の人々の努力について調べようとする態度を養う。	高知県馬路村のゆずや徳島県上勝町の「つまもの」などを事例に、商品開発と通信販売などによって地域おこしを営む人々の努力に興味をもち、とらえようとしている。	多くのエネルギーを消費して輸入する食品よりも地元産物を消費しようとする地産地消の考え方を理解し、地域おこしの課題について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	「馬路村の人口構成」、「上勝町の人口構成」から、過疎地域に共通する人口構成の特色を読み取り、地域おこしの中核となった特産品や各地の人々の努力について調べようとしている。	馬路村や上勝町を事例に、過疎地域における地域おこしや人々の努力、課題について理解している。
	⑤交通網の発達と人口の変化 1	○中国・四国地方の交通網の整備によって、地域の人々の生活に与えた影響について理解する。 ○中国・四国地方の交通網の変化を示した主題図から、人々の行動圏が拡大したことや航路の廃止などを読み取ることができる。	中国・四国地方の交通網の特色に注目し、山陽新幹線や本州四国連絡橋の開通と、それによる地域の変化に興味をもち、とらえようとしている。	本州四国連絡橋の完成を例に、完成前と完成後の人々の生活がどのように変化したかについて、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	「中国・四国地方の交通網の変化」から、人々の行動圏が拡大したことや航路の廃止、地方空港の新設などの変化を読み取っている。	中国・四国地方の交通網の発達によって、人々の生活に与えた影響を多面的に理解している。
特設 荒廃の進む日本の山村 (1)	○山村の過疎化にともなって、農地や地域社会の維持が困難になりつつある現状を理解する。 ○過疎地域の耕作放棄地の拡大に関心をもち、その対策などについて調べようとする態度を養う。	全国的に山村の過疎化が進行し、生活環境の維持が困難な、危機的な状況となっていることに関心をもち、その対策などについてとらえようとしている。	林業を例に、木材の輸入自由化が木材価格の下落を招き、その結果森林の間伐や枝打ちが行われなくなり、雨が降ると土砂が流れてしまうため山崩れの原因になることを多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	「高齢者が人口の50%以上を占める集落数とその割合」、「都道府県ごとの耕作放棄地の占める割合」から、中国・四国地方の特色を読み取っている。	山村の過疎化の進行にともなって、農地や地域社会の維持が困難になりつつある現状を理解している。	

編	章・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第2編 日本のさまざまな地域	●節の評価規準					
	第3章 日本の諸地域 3 近畿地方～歴史的背景を中心に考えよう 5	○地域の産業、文化の歴史的背景や開発の歴史を中核として、それを国内外の他地域との結びつきや自然環境などと関連づけ、地域の地理的事象の形成や特色に歴史的背景が関わっていることなどについて考察する。	近畿地方の地域的特色に対する関心を高め、それらを意欲的に追究し、とらえようとしている。	近畿地方の地域的特色を、歴史的背景を中核とした考察の仕方をもとに多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	近畿地方の地域的特色に関するさまざまな資料から、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	近畿地方について、歴史的背景を中核とした考察の仕方をもとに地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。
	●各単元の評価規準					
	①歴史に育まれた地域 1	○近畿地方の位置と自然環境を大観し、構成する府県の位置と名称を理解する。 ○近畿地方の地勢図から、主な自然地名や各府県、主な都市の位置と名称を読み取ることができる。	京都の西陣織、京友禅などの伝統産業に興味をもち、それらが古くから都として発展してきた歴史を背景に宮廷や寺社、庶民の生活や文化を支えてきたことに気づき、とらえようとしている。	近畿地方が古代から中世にかけて日本の中心として発展してきた理由や、近世には経済の中心であったことなど、歴史的な事象を背景として説明している。	近畿地方の位置や構成する府県、主な自然地名を地勢図から読み取ったり、歴史的背景について図表などにまとめたりしている。	近畿地方の位置と自然環境を大観し、構成する府県の位置と名称を理解するとともに、大まかな歴史的背景を理解している。
	②京都の街並みと景観保全 1	○伝統的な街並みの保存と都市の開発という二つの問題における対立と調和について理解する。 ○景観の保全と開発において、さまざまな立場の意見について考え、表現できる。	京都の街並みが平安京の条坊制に由来することに興味をもち、また街並み保存とその変遷をとらえようとしている。	景観保全と地域開発において、さまざまな立場や意見があることを説明できる。	「京都市の街並み」、「平安京の大路と現在の市街地の広がり」から、京都の地割の特色を読み取っている。	京都市を事例として、開発や都市化、伝統的な街並みと景観保存などにおける対立と調和について理解している。
	③阪神工業地帯の発展と課題 1	○阪神工業地帯における工業の特色や、その歴史的な変化を理解する。 ○東大阪市を例に、地域のものづくりの特色について考え、表現できる。	東大阪市の「オンリーワン企業」や「トップシェア企業」とよばれるほどの技術力のある企業の動きに興味をもち、とらえようとしている。	東大阪市を例に、地域のものづくりの特色について考え、また過去から現在に至る阪神工業地帯の変遷について、歴史的な事象を背景に説明している。	「日本の主な製鉄工場の分布の移り変わり」、「近畿地方の主な工業都市の分布」から、阪神工業地帯の地域的特色、「日本の工業地帯・工業地域の生産割合の変化」から、全国に占める割合の変化を読み取っている。	阪神工業地帯における工業の特色や課題、その歴史的な変化を理解している。
	④商業のまち・大阪の変化 1	○大阪の商業について、その歴史的な変化と現代における課題、その要因を理解する。 ○京阪神大都市圏の交通網の整備と、日本の経済における大阪の位置づけについて考え、表現できる。	京阪神大都市圏での交通網の整備や、日本の経済における大阪の位置づけに興味をもち、都市計画や都市の発達をとらえようとしている。	京阪神大都市圏の交通網の整備と、日本の経済における大阪の位置づけについて考え、説明している。また、関西国際空港の位置と課題について指摘している。	「大阪市への通勤・通学者の分布」から、都市分布と交通網の関係を読み取ったり、「卸売業の年間商品販売額に占める各都府県の割合の変化」、「卸売・小売業企業の本社所在地の分布」から東京都と大阪府の地位についてまとめたりしている。	大阪の商業について、その歴史的な変化と、東京の一極集中の進行による影響について理解している。
	⑤琵琶湖の水の利用と環境 1	○琵琶湖の自然環境や近畿地方の水源地としての特徴、環境保全の歴史を理解する。 ○琵琶湖の環境保全と周辺地域の開発の対立について考え、表現できる。	琵琶湖の水利用の歴史に興味をもち、人々の生活排水が琵琶湖の水質悪化を引き起こしていることに気づき、それを防止するための条例の制定や、ヨシ群落の復元などの保全活動をとらえようとしている。	琵琶湖の水利用の歴史について知り、琵琶湖の環境保全と周辺地域の開発の対立について考え、環境保全にはさまざまな立場や意見があること、そうした必要な知識を得ることの重要性を説明している。	「淀川水系の水が供給されている地域」から、琵琶湖が重要な水源地であることや、「琵琶湖の水質の変化」から、琵琶湖の環境の変遷について読み取っている。	琵琶湖の水利用の歴史や、琵琶湖の自然環境や水源地としての特徴、環境保全の歴史、周辺地域の開発との対立について理解している。
	特設 東アジアと結びつく街 (1)	○神戸市の中華街と大阪市のコリアタウンの形成について、その歴史的背景を理解する。 ○国内に古くから暮らす外国人（オールドカマー）に関心をもち、日本と近隣諸国の歴史や課題について調べようとする態度を養う。	国内に古くから暮らす外国人の人々に関心をもち、日本と近隣諸国の歴史や課題について調べようとする態度を養う。	神戸市南京町の中華街や大阪市生野区のコリアタウンを事例に、どのように外国人の人々が増えてきたのかについて説明している。	「日本に住む外国人の国籍（出身地）別の割合」から、中国、韓国・朝鮮の人々が多く暮らしていること、さまざまな写真資料から日本にある中華街の共通点を読み取っている。	神戸市の中華街と大阪市のコリアタウンの形成について、その歴史的背景とともに理解している。

編	章・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用技能	社会的事象についての知識・理解
第2編 日本のよまごまな地域	●節の評価規準					
	第3章 日本の諸地域 4 中部地方～産業を中心に考えよう 5	○地域の産業に関する事象を中核として、それを成り立たせている地理的諸条件と関連づけ、地域に果たす産業の役割やその動向は、他の事象との関連で変化することなどについて考察する。	中部地方の地域的特色に対する関心を高め、それらを意欲的に追究し、とらえようとしている。	中部地方の地域的特色を、産業を中核とした考察の仕方をもとに多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	中部地方の地域的特色に関するさまざまな資料から、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	中部地方について、産業を中核とした考察の仕方をもとに地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。
	●各単元の評価規準					
	①産業が活発な地域 1	○中部地方の位置と自然環境を大観し、構成する県の位置と名称を理解する。 ○中部地方の地勢図から、主な自然地名や各県、主な都市の位置と名称を読み取ることができる。	東海地方・中央高地・北陸地方の三地域の違いに関心を高め、それらを中心に中部地方について調べようとしている。	中部地方を地形・気候の面から三つの地域に区分して、各地域における産業との関わりを説明している。	中部地方の位置や構成する県、主な自然地名、主な都市の位置と名称を読み取ったり、地図帳を使って「中部地方各地の産業」で示された写真の撮影場所の位置を確かめている。また「北陸地方、中央高地、東海地方の区分」から、各地域の範囲を調べている。	中部地方の位置と自然環境を大観し、構成する県の位置と名称、東海地方・中央高地・北陸地方の地域名と範囲を理解している。
	②日本経済をリードする工業地域 1	○中京工業地帯と東海工業地域には、自動車などの機械工業が発達しており、地域経済を支えていることを理解する。 ○豊田市の自動車産業を例に、合理化された生産体制などについて考え、表現できる。	中京工業地帯・東海工業地域の地域的特色に関心をもち、自動車などを中心とした機械工業の発達の経過についてとらえようとしている。	中京工業地帯や東海工業地域の工業の特色について、各都市で盛んな工業を例にあげながら説明している。	「中京工業地帯・東海工業地域の工業都市の分布」から、主な都市とその規模を読み取ったり、関連させて「主な工業地帯・工業地域の生産額の割合」から中京工業地帯・東海工業地域の特色を調べている。	中京工業地帯と東海工業地域には自動車などを中心とした機械工業が発達していることや、それがこの地域の経済を支えていることを理解している。
	③先進的な第一次産業 1	○東海地方を事例として、付加価値を高めた先進的な第一次産業の生産について理解する。 ○静岡県の茶の生産などを例に、集約化された農業生産の工夫などについて考え、表現できる。	東海地方の集約的な農業や水産業に対する関心を高め、その発達の自然的条件や社会的条件を調べようとしている。	静岡県の茶の生産などを事例に、その発展の経過や集約化された生産の工夫などについて整理し、説明している。	「日本の漁獲量の変化」から、遠洋漁業や沖合漁業、輸入量との関係に気づき、その理由を読み取り、「日本の主な漁港と水揚げ量」から、主な海流と漁港の分布の関係などを読み取っている。	東海地方における第一次産業での付加価値を高めるための工夫や、他地域との競争や後継者不足といった課題について理解している。
	④自然環境を生かした産業 1	○中央高地では、自然的条件を生かした農業や観光業が盛んであることを理解する。 ○長野県の高原野菜の生産を例に、他地域との時期をずらした出荷などについてその利点を考え、表現できる。	八ヶ岳山麓などにおける高冷地野菜栽培、諏訪湖周辺の工業生産、自然環境を生かした観光業に関心をもち、中央高地の産業の様子をとらえようとしている。	中央高地の農業や工業、観光業の特色を自然的条件や歴史的背景をもとに考え、その利点を説明している。	「レタスの月別出荷量」から、長野県の他県と時期をずらした出荷を気候との関係から読み取っている。「中央高地の主な観光地と観光客数」から、主な観光地の分布と交通網の広がりとの関係を読み取っている。	中央高地では、自然的条件や交通網の整備による首都圏との結びつきを生かした農業や観光業が盛んであることを理解している。
	⑤雪に育まれた伝統産業 1	○北陸地方における多雪と伝統産業の発達、多雪と水田単作との関係について理解する。 ○北陸地方の伝統的工芸品や、日本各地の地場産業に関心をもち、調べようとする態度を養う。	金沢市を事例に、北陸地方の地場産業、水田単作に関心をもち、自然的条件などと関連づけてとらえようとしている。	北陸地方の多雪という環境が、伝統産業や水田単作など、北陸の産業の発達に関係していることを指摘している。	「日本の最深積雪量の分布」から、北陸地方が日本でも有数の多雪地帯にあることを読み取っている。「中部地方の主な県の農業生産額の割合」から、北陸地方が、中央高地・東海地方と比べて米中心（水田単作）であることを読み取っている。	北陸地方が多雪地帯であることをふまえて、伝統産業が発達した理由や農業が水田単作中心であることを理解している。
	特設 多文化共生をみざして (1)	○浜松市などの工業地域で働く日系ブラジル人を例に、多文化共生の社会の重要性を理解する。 ○国内に比較的新しく暮らす外国人（ニューカマー）に関心をもち、労働や生活の課題について調べようとする態度を養う。	工業が発達した東海地方に日系ブラジル人が多く住んでいることに関心をもち、その理由や取り巻く環境の変化について調べようとしている。	日系ブラジル人の就労に関わる課題について調べ、事実に基づいて説明している。	「主な外国人集住都市の分布と、外国人の国籍（出身地）別の人口の割合」と203ページ「中京工業地帯・東海工業地域の工業都市の分布」から、外国人の居住と工業都市の分布の関係について読み取っている。	静岡県浜松市などの工業地域で働く日系ブラジル人を例に、多文化共生の取り組みとその重要性を理解している。

編	章・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第2編 日本のさまざまな地域	●節の評価規準					
	第3章 日本の諸地域 5 関東地方～他地域との結びつきを中心に考えよう 5	○地域の交通・通信網に関する事象を中核として、それを物資や人々の移動の特色や変化などと関連づけ、世界や日本の他地域との結びつきの影響を受けながら地域が変容していることなどについて考察する。	関東地方の地域的特色に対する関心を高め、それらを意欲的に追究し、とらえようとしている。	関東地方の地域的特色を、他地域との結びつきを中核とした考察の仕方をもとに多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	関東地方の地域的特色に関するさまざまな資料から、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	関東地方について、他地域との結びつきを中核とした考察の仕方をもとに地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。
	●各単元の評価規準					
	①日本の中心的な地域 1	○関東地方の位置と自然環境を大観し、構成する都県の位置と名称を理解する。 ○関東地方の地勢図から、主な自然地名や各都県、主な都市の位置と名称を読み取ることができる。	東京国際（羽田）空港が日本の航空路線の中心であることに気づき、関東地方と日本各地や世界各地との結びつきについてとらえようとしている。	東京に首都機能があり、人・もの・情報などが集中することが、関東平野の人口増加につながったことを説明している。	関東地方の地勢図から、主な自然地名や各都県、主な都市の位置と名称を確かめている。「日本国内の主な航空路線の旅客数」から、東京国際（羽田）空港の中心性や旅客数の多い路線は主に西日本に多いことを読み取っている。	関東地方の位置と自然環境を大観し、構成する都県の位置と名称を理解するとともに、日本の中の中心性や各地との結びつきを理解している。
	②日本の首都 東京 1	○首都のもつ中枢管理機能によって、東京は日本の政治・経済・文化の中心地となっていることを理解する。 ○鉄道のターミナルに副都心が発達し、土地の効率的な利用のために高層ビルが建ち並ぶことについて考え、表現できる。	東京都千代田区周辺に首都機能が集中している様子から、東京の特色に関心をもち、それをとらえようとしている。	副都心開発や、高層ビルの増加の理由について、集中の緩和や土地の有効利用といった観点から考察し、説明している。	「東京周辺の昼間と夜間の人口」から、変化が大きい地域を読み取り、その理由を東京の地価などをもとにして文章にまとめている。	首都のもつ中枢管理機能によって、東京が日本の政治・経済・文化の中心地となっていることを理解している。
	③拡大する都市圏 1	○東京を中心とした大都市圏の拡大によって、過密にともなう課題が発生し、都心の機能が移転したことを理解する。 ○東京への通勤・通学圏の拡大の理由について、鉄道網の発達と関連づけて考え、表現できる。	都心部の混雑や地価の高騰に関心をもち、東京大都市圏が拡大した理由やその問題点をとらえようとしている。	東京大都市圏が拡大したことによる問題点を、過密の観点をふまえて説明している。	「東京23区への通勤・通学者人口の分布」から、東京への通勤・通学圏が、鉄道網に沿って放射状に広がっている様子を読み取っている。	東京大都市圏の拡大によって、過密にともなう課題が発生し、都心機能の移転などの対策が行われたことを理解している。
	④東京湾岸から内陸地域へ 1	○関東地方は日本で最も工業の発達した地方であり、東京湾岸地域から内陸地域へと拡大してきたことを理解する。 ○工業地域の拡大の理由を、用地や労働力、交通網の発達と関連づけて考え、表現できる。	関東地方で工業地域が拡大した経緯に関心をもち、その理由を調べようとしている。	関東地方で工業地域が拡大した理由を、用地や労働力の確保、交通網の発達と関連づけて考察している。	「関東地方の主な工業都市の分布」から、東京湾岸を中心とした京浜工業地帯と内陸の北関東工業地域の広がりを読み取っている。「関東地方の工業にみる地域別生産額の割合」から、三つの工業地域の工業の特色を比較し、文章にまとめている。	関東地方の工業地域が東京湾岸から内陸へと拡大して発展したこと、それにより関東地方は日本で最も工業の発達した地方となったことを理解している。
	⑤世界都市 TOKYO 1	○成田国際空港や横浜港は世界の多くの国々と結びついており、関東地方は外国との窓口としての機能をもつことを理解する。 ○世界との結びつきが強まることで、地域の国際化が進み、外国人労働者が増加したことなどについて考え、表現できる。	関東地方には多くの外国人が居住していることに気づき、国際化してきた理由を追究しようとしている。	東京を中心とする関東地方に外国人が多く居住する理由として、政治や経済面で世界との結びつきが強まったことを例をあげて説明している。	「都道府県別の外国人登録者数」から、関東地方に多くの外国人が居住していることを読み取っている。「横浜港と成田国際空港の貿易品目」から、両者の違いに着目し、その特色と理由を表にまとめている。	成田国際空港や横浜港、東京など関東地方が外国との窓口としての機能をもつことを理解している。
特設 交流による地域づくり (1)	○落語をきっかけにした地域の祭りが縁で、地域づくりがなされてきたことを理解する。 ○都市と農村の交流について関心をもち、地域活性化と課題について調べようとする態度を養う。	『目黒のさんま』という落語をきっかけとして、さんまを焼いて食べるときに必要なものの産地との交流を深めていることに関心をもち、地域の交流や協力の輪が広がっていることについて調べようとしている。	地域間の具体的な交流によって、それぞれの地域にもたらした効果や利点を具体的に説明している。	目黒区の交流などを例として、地域活性化をみずき取り組みという視点で模式図にまとめている。	地域交流の新しいかたちとして、地球温暖化への対策も含めた地域づくりを行うことで交流を深め、より魅力ある地域づくりがなされてきたことを理解している。	

編	章・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第2編 日本のさまざまな地域	●節の評価規準					
	第3章 日本の諸地域 6 東北地方～生活・文化を中心に考えよう 5	○地域の伝統的な生活・文化に関する事象を中核として、それを自然環境や歴史的背景、他地域との交流などと関連づけ、近年の都市化や国際化によって地域の伝統的な生活・文化が変容していることなどについて考察する。	東北地方の地域的特色に対する関心を高め、それらを意欲的に追究し、とらえようとしている。	東北地方の地域的特色を、生活・文化を中核とした考察の仕方をもとに多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	東北地方の地域的特色に関するさまざまな資料から、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	東北地方について、生活・文化を中核とした考察の仕方をもとに地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。
	●各単元の評価規準					
	①豊かな文化を育んだ地域 1	○東北地方の位置と自然環境を大観し、構成する県の位置と名称を理解する。 ○東北地方の地勢図から、主な自然地名や各県、主な都市の位置と名称を読み取ることができる。	東北地方の生活・文化に対する関心を高め、それらを中心として東北地方の特色を意欲的に調べようとしている。	東北地方を日本海側と太平洋側に分け、気候の違いを季節風の向きと関連づけて説明している。また、秋田首頭を例に、自然・生活・伝統文化についてその背景などを考察している。	東北地方の地勢図から、主な自然地名や各県、主な都市の位置と名称、奥羽山脈を境にした東西の自然環境の相違などについて読み取っている。	東北地方の位置と自然環境を大観し、構成する県の位置と名称とともに、東北地方のあゆみについて理解している。
	②現代に生きる地域文化 1	○東北地方の祭りや伝統文化、住居形態の背景や、伝統芸能を観光資源として生かしていることについて理解する。 ○東北の三大祭りなどから、かつての人々の暮らしの様子に関心をもち、地域文化について調べようとする態度を養う。	東北の三大祭りから、かつての人々の暮らしの様子に関心をもち、地域文化について調べようとしている。	東北地方のさまざまな無形の文化遺産や、かつての馬と人の関わりについて南部曲家などから考察している。	「ユネスコに登録された日本の無形文化遺産の分布」から、国際的に認められた伝統行事などの分布を読み取っている。「南部曲家の間取りの例」から、馬屋と一体化した住居の形態を確認している。	東北地方の伝統文化や住居形態の歴史的背景、伝統芸能が観光資源として活用されていることを理解している。
	③東北地方の食文化と水産業 1	○東北地方における人々の暮らしを通じて、自然環境と文化や産業との関わりについて理解する。 ○東北地方太平洋岸を例に、地域の水産業の発達と、リアス海岸などの自然環境について考え、表現できる。	東北地方の食文化や水産業について関心をもち、その食文化・水産業がどうしてその地域に根づいたのか、その理由について調べようとしている。	東北地方各地の食文化や水産業について具体的な事例を取り上げ、その歴史的背景や自然環境との関わりについて考察している。	「魚種別にみる都道府県別漁獲量」から、東北地方で漁獲量の多い魚種について読み取っている。	東北地方の食文化や水産業について、地形や海流など自然環境が大きく影響するなかで、人々の暮らしが営まれてきたことを理解している。
	④冷害を乗り越える農家 1	○東北地方の農業について、冷害が発生しやすい一方で、稲の品種改良などの対策が工夫されてきたことを理解する。 ○農業経営を安定させるため、稲作と果樹栽培や畜産などとの複合経営が行われてきたことについて考え、表現できる。	山形県での冷害に対する稲作の工夫に関心をもち、東北地方の農業について追究しようとしている。	稲作を中心とした農業経営を安定させるために、稲の品種改良、果樹栽培や畜産などとの複合経営が行われてきたことを指摘している。	「日本の米生産量の地方別割合」から東北地方の占める地位を確認し、「東北地方各県の米の品種別作付面積の割合」から、各地で特色ある銘柄米が生産されていることを読み取っている。	東北地方では、稲の品種改良や複合経営などの工夫によって冷害に対応してきたことを理解している。
	⑤農村の暮らしの変化 1	○農村地域の景観の変化について、都市化、工業化などと関連づけて理解する。 ○準主業農家・副業的農家の増加について、農業の機械化や他業種への就業機会の増加などと関連づけて考え、表現できる。	農村の景観や稲作技術の変化に関心をもち、人々の暮らしの変容について追究しようとしている。	農村地域の景観の変化について、農村の都市化、農業の機械化、地域の工業化、国際化などと結びつけて考察している。	「東北地方の各県にみる主業・副業別農家の割合」から、全国と比べて全体的に準主業農家・副業的農家の割合が高まってきていることを読み取っている。「東北地方の主な交通網と工業の分布」から、1970年から工業生産額が増加したこと、IC関連工場が高速道路沿いに分布していることを読み取っている。	農村地域の景観の変化について、都市化や工業化、国際化と関連づけて理解し、また、景観保全や文化財保護の取り組みの大切さに気づいている。
特設 震災を乗り越えて (1)	○岩手県山田町における祭りの復活を例に、地域の人々の思いや伝統文化の継承について理解する。 ○東日本大震災で被害を受けた地域について関心をもち、各地の伝統芸能・文化の継承について調べようとする態度を養う。	地域の伝統芸能や文化財の救済事業について関心をもち、地域や事業の歴史・背景について調べようとしている。	山田町の魚賀波間神社の例大祭の復活について、人々の復活にかけられる思いや震災後の被害の状況について調べて、まとめている。	「岩手県下閉伊郡山田町大沢地区の位置」から、本文の記述と合わせ、東日本大震災時における被害について地域的特色を読み取っている。	地域ごとの伝統文化や文化財の救済事業について興味をもち、「地域の文化を引き継いでいく」意義やその課題について理解している。	

編	章・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用技能	社会的事象についての知識・理解
第2編 日本のさまざまな地域	●節の評価規準					
	第3章 日本の諸地域 7 北海道地方～自然環境を中心に考えよう 5	○地域の地形や気候などの自然環境に関する事象を中核として、それを人々の生活や産業などと関連づけ、自然環境が地域の人々の生活や産業などと深い関係をもっていることや、地域の自然災害に応じた防災対策が大切であることなどについて考察する。	北海道地方の地域的特色に対する関心を高め、それらを意欲的に追究し、とらえようとしている。	北海道地方の地域的特色を、自然環境を中核とした考察の仕方をもとに多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	北海道地方の地域的特色に関するさまざまな資料から、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	北海道地方について、自然環境を中核とした考察の仕方をもとに地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。
	●各単元の評価規準					
	①自然改変の歴史をもつ地域 1	○北海道地方の位置と自然環境を大観し、主な都市の位置と名称を理解する。 ○北海道地方の地勢図から、主な自然地名や主な都市の位置と名称を読み取ることができる。	北海道地方の自然環境に対する関心を高め、それを中心として北海道地方の特色について調べようとしている。	北海道地方の自然環境の改変の理由について、明治政府の政策や開拓の歴史から説明している。	北海道地方の地勢図から、主な自然地名や主な都市の位置と名称を読み取っている。「北海道の土地利用の変化」から、森林が開拓され農地へと変化したことや、都市が発達してきたことを読み取っている。	北海道地方の位置や自然環境を大観し、主な都市の位置と名称、自然環境の改変と明治政府の政策との関連を理解している。
	②厳しく長い冬の暮らし 1	○冷帯（亜寒帯）に属する北海道の気候と、それに対応した人々の暮らしの特色について理解する。 ○再生可能なエネルギーの利用について関心をもち、身近な地域での事例について調べようとする態度を養う。	再生可能なエネルギーの利用について関心をもち、北海道や身近な地域での事例について調べようとしている。	寒冷な気候の中での人々の暮らしの特色や、そうした気候を活用した生活の工夫について指摘している。	「北海道の日照時間の分布」、「北海道各地の気温と降水量」から、日本海側と太平洋側の特色の違いを読み取っている。	冷帯（亜寒帯）に属する北海道地方の気候の特色を理解し、それに対応した人々の暮らしの特色について理解している。
	③日本の食料基地として 1	○北海道の大規模な農業経営と、日本の食料基地としての役割について理解する。 ○十勝平野の畑作や根釧台地の酪農について、自然的条件や社会的条件と関連づけて考え、表現できる。	北海道の大規模な農業について関心を高め、その特色や課題をとらえようとしている。	十勝平野の畑作や根釧台地の酪農の特色について、自然的条件や社会的条件と関連づけて考察している。	「耕地面積からみた、日本・各都府県と北海道との比較」から、北海道の農業の特色を読み取っている。	北海道が日本の「食料基地」とよばれる理由や、北海道各地の農業の特色について理解している。
	④「とる漁業」から「育てる漁業」へ 1	○北洋漁業における漁獲制限や、栽培漁業や養殖の拡大の傾向について理解する。 ○水産資源の保護と北洋漁業の課題について関心をもち、国際関係と関連させて調べようとする態度を養う。	北海道の漁業が「とる漁業」から「育てる漁業」へ変化してきた理由をとらえようとしている。	北洋漁業が大きく変化した理由を、歴史的経過をふまえて説明している。	「北海道の海面漁業生産の変化」から、北海道の漁業全体と栽培漁業の生産の変化を読み取っている。「北海道の市町村別漁業生産量と魚種別生産量」から、特徴を読み取っている。	北洋漁業に代表される「とる漁業」がいきづまった理由や、北海道の栽培漁業や養殖へ転換していく傾向にあることについて理解している。
	⑤豊かな自然を生かした観光 1	○北海道の豊かな自然を生かした観光産業と地域の活性化の関連について理解する。 ○身近な地域での自然や伝統的な文化を楽しむエコツアーのあり方について考え、表現できる。	北海道地方の自然環境を生かした観光の特色について、追究しようとしている。	身近な地域での自然や伝統的な文化を楽しむエコツアーのあり方について、北海道の具体的な事例をもとに考察している。	「北海道の外国人観光客の国・地域別割合」から、アジアからの観光客が多いことを読み取っている。「北海道内の月別観光客数」から、観光客は夏季に多く、冬季に少ないことを読み取っている。	北海道の観光資源の多くは豊かな自然環境を生かしたものであることや、交通網整備の遅れなどの課題について理解している。
特設 アイヌの人たちの文化にまなぶ (1)	○アイヌ民族の歴史や文化を知り、伝統文化を継承する重要性を理解する。 ○アイヌ民族の文化に関心をもち、日本国内での多様な地域文化の共存について調べようとする態度を養う。	自然を大切にしてきたアイヌ民族への関心を高め、アイヌの人たちの文化や生活について調べようとしている。	アイヌ文化振興法が制定されてからの変化を、それ以前の様子と比較しながら説明している。	近世から現代にかけて、アイヌ民族が置かれた状況を適切に表にまとめている。	アイヌ民族の歴史や文化を理解し、伝統文化を継承する取り組みやその重要性を理解している。	

編	章・学習項目	学習のねらい	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
第2編 日本のさまざまな地域	●章の評価規準					
	第4章 身近な地域の調査 8	○身近な地域における諸事象を取り上げ、観察や調査などの活動を行い、地域に対する理解と関心を深めて地域の課題を見だし、地域社会の形成に参画し、その発展に努力しようとする態度を養う。市町村規模の地域の調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方や発表の方法の基礎を身に付ける。	身近な地域の調査とその地域的特色や地域の課題に対する関心を高め、それらを意欲的に追究し、とらえようとしている。	身近な地域の地理的事象から課題を見だし、身近な地域の調査を行う際の視点や方法をもとに多面的・多角的に考察し、公正に判断して、その過程や結果を地理的なまとめ方や発表の方法により適切に表現している。	身近な地域の調査とその地域的特色や地域の課題に関するさまざまな資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。	身近な地域の調査について、地域的特色や地域の課題とともに、身近な地域の調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方や発表の方法を理解し、その知識を身に付けている。
	●各単元の評価規準					
	①地域をながめて 1	○身近な地域を調査することを通じて、野外調査に関連する技術を身に付ける。 ○身近な地域に対して関心を高め、注意しながら観察しようとする態度を養う。	身近な地域の学習に対して関心を高め、中学校の周辺を注意深く観察し、発見や疑問を記録している。	身近な地域観察を通して、地形図と実際の風景の関係や疑問点を指摘している。	身近な地域を調査するための観察の仕方やその主な視点を実際の野外調査を通じて身に付けている。	地域調査の見通しの立て方や野外観察の主な視点を理解し、地形図と実際の風景の関係に気づいている。
	②地形図の見方を知ろう 1	○地形図の縮尺とそれに応じた表現の違いについて理解し、読み取りなどの技能を身に付ける。 ○調べる対象に応じて適切な縮尺の地形図を選択し、読み取ることができる。	さまざまな縮尺の地形図の存在に関心をもち、それぞれの表現の違いについて調べようとしている。	調べる対象に応じて適切な縮尺の地形図を推測し、調査にふさわしい地形図を選択している。	縮尺とそれに応じた表現の違いをふまえて、地形図上の長さや実際の距離の関係をとらえ、必要な情報を読み取っている。	地形図の縮尺とそれに応じた表現の違いについて理解し、読み取りなどの技能を身に付けている。
	③調査テーマを決めて計画を立てよう 1	○KJ法によって具体的な調査テーマを抽出し、さまざまな調査方法から適切なものを選択できる。 ○観察によって得られた地域の情報や疑問などをルートマップの上で共有し、テーマ別に班を編成して具体的な調査の計画を立てる。	野外観察をもとにした話し合いに積極的に参加し、進んで発表しようとしている。	観察によって得られた地域情報や疑問などをルートマップの上で共有し、班で相談しながら、調べたいことを調査計画書にまとめている。	KJ法によって班の具体的な調査テーマを決め、さまざまな調査方法から、そのテーマに適切な方法を選択している。	テーマの決め方や調査方法、計画書のまとめ方について理解し、その知識に基づいて調査計画を進めている。
	④地域の工業を調べよう ⑤地域の商店街を調べよう 2	○文献資料から地域の変化を年表やモデル図に加工したり、統計資料をグラフ化する。聞き取り調査を実施し、得られた情報を整理することができる。 ○地形図や同一地点の景観写真の新旧比較を行い、地域の変化を読み取り、文章に表現する。地域で活動している各種団体への聞き取りを行う。	聞き取り調査に高い関心をもち、積極的に取材しようとしている。	地形図や景観写真の新旧比較、文献資料、聞き取り調査などから地域の変化を読み取り、文章や図にまとめている。	文献資料・統計資料や地形図などから地域の変化を年表やグラフ、地図などに加工し、聞き取り調査での情報を適切に整理している。	文献資料や統計資料の活用の仕方、新旧の地図の比較方法などを理解し、その知識を使って調査活動を進めている。
	⑥発表会を開こう 1	○調査した結果をレポートやイラストマップ、新聞形式、パソコンを使って発表形式にまとめるなどの表現ができる。 ○各班の調査結果をクラスで共有するための発表会の準備を進める。	調査結果をクラスで共有するための発表会の準備に積極的に参加している。	調査結果の表現方法を適切に選択し、手法に応じてわかりやすくまとめ、表現している。	調査した結果をレポートやイラストマップ、新聞形式、パソコンを使い発表用に整理するなど、わかりやすく表現している。	調査した結果のまとめ方や発表の方法を理解し、その知識を自分たちの発表会に生かしている。
	⑦地域に向けて発信しよう 1	○地域の課題とその解決のための方策などを提案する。 ○地域調査に協力いただいた方々を教室に招くなどして、調査結果を報告する。	地域調査の発表会に積極的に参加し、よりよい発表会とするために意欲的に活動している。	地域の課題とその解決のための方策などを生徒や地域調査に協力していただいた方々に対し、わかりやすく説明、提案している。	イラストマップやグラフを活用して、調査結果を適切に報告している。	調査結果など具体的な知識に基づいて、地域の課題や改善策について報告、提案をしている。
	⑧レポートにまとめよう 1	○調査結果を各自で文章やグラフ、主題図などで表現し、レポートとしてまとめる。 ○調査活動を振り返り、調査における視点と方法をまとめ、技能として身に付ける。	身近な地域の学習を振り返りながら、よりよいレポートを書こうと工夫している。	調査結果を自分の言葉でまとめ、グラフ、主題図などを活用して、レポートとして提出している。	身近な地域の調査における視点と方法、レポートのまとめ方を技能として身に付けている。	調査活動を振り返り、身近な地域の調査における視点と方法を理解している。